

## 経営学専攻 修士課程・夜間

### <理念・目的、教育目標>

企業経営に関する理論研究と実務的な応用研究の両輪をバランスよく発展させ、創造的研究を行う。

修士課程・夜間では、社会人を対象とした高度職業人育成のための教育を行う。新規に事業を始めようとする企業家(志向者)に対する総合的教育、国際経営、人材・組織、マーケティング、アカウンティング・ファイナンスなど各専門分野におけるミドルマネジメントの再教育を主眼とし、企業やその他団体等で高度な経営課題に応えられる経営管理職・専門職等の育成をめざす。

### < 2017年度開講科目 >

授 業 科 目	担当教員名	単位	掲載ページ	備 考
企業家養成演習	稲垣京輔	2	296	春学期・秋学期 各2単位
	金容度	2		
	近能善範	2		
	福島英史	2		
	吉田健二	2		
ワークショップ(企業家養成)	吉田健二	4	297	
企業家活動	稲垣京輔	4	298	
企業家史	二階堂行宣	4	299	
イノベーション・マネジメント概論	近能善範	4	300	
企業間関係論	金容度	4	301	
国際経営演習	藤澤利治	2	302	春学期・秋学期 各2単位
	李瑞雪	2		
ワークショップ(国際経営)	李瑞雪・後藤哲郎	4	303	
国際経営論	洞口治夫	4	304	
地域経済研究(アジア)	苑志佳	4	305	
国際人事	白木三秀	2	306	
国際会計論	菊谷正人	4	307	
国際金融論	横内正雄	4	308	
人材・組織マネジメント演習	小川憲彦	2	308	春学期・秋学期 各2単位
	奥西好夫	2		
	佐野哲	2		
	長岡健	2		
	西川真規子	2		
ワークショップ(人材・組織マネジメント)	長岡健	4	309	
キャリアマネジメント論	小川憲彦	4	310	
労働市場論	藤本真	4	311	
労使コミュニケーション論	呉学殊	4	312	
組織行動論	西川真規子	4	313	

授 業 科 目	担当教員名	単位	掲載ページ	備 考
マーケティング演習	竹 内 淑 恵	2	春学期 314 (左)	春学期・秋学期 各2単位
	新 倉 貴 士	2		
	西 川 英 彦	2	秋学期 314 (右)	
	長谷川 翔 平	2		
ワークショップ(マーケティング)	小 林 健 一	4	315	
マーケティング論	竹 内 淑 恵	4	316	
消費者行動論	新 倉 貴 士	4	317	
マーケティング・リサーチ論	西 川 英 彦	4	318	
製品開発論	田 路 則 子	4	319	
アカウンティング・ファイナンス演習	菊 谷 正 人	2	320・321	春学期・秋学期 各2単位
管理会計論	平 井 裕 久	4	322	
財務会計論	川 島 健 司	4	323	
租税法	菊 谷 正 人	4	324	昼間コースより移行
経営分析	高 橋 美穂子	4	325	
基礎ファイナンス	山 崎 輝	4	326	「基礎ファイナンスⅠ」から名称変更
実証ファイナンス入門	金 瑠 晋	4	327	「基礎ファイナンスⅡ」から名称変更
コーポレート・ファイナンス	岸 本 直 樹	2	328	「財務戦略論」から名称変更
経営学基礎	福 島 英 史	2	329	
会計学基礎	筒 井 知 彦	2	329	
情報学特論	児 玉 靖 司	2	330	
外国語経営学特殊講義 1	ジョナサン・エーブル	2	331	
外国語経営学特殊講義 2	ジョナサン・エーブル	2	331	

※主要研究業績については、最新のもののみ記載しています。

※法政大学大学院学則の授業科目一覧表に記載のある科目で、上記一覧表に記載のない科目は、2017年度休講です。

## <履修上の注意>

### 1. 修了要件

所属コース論文指導科目（必修科目）	4単位
所属コース選択必修科目	16単位以上
選択科目（コース共通科目、他コース科目等）	10単位以上
修士論文	
合 計	30単位以上

2年以上在学し、上記単位の修得のほか、指導教員の指導のもと、修士論文の審査ならびに最終試験に合格することが修了要件です。

※修了要件の大枠については、『大学院要項』25ページの修了要件も参照してください。

※論文執筆の手引きについては、294ページを参照してください。

## 2. カリキュラムについて

### 経営学専攻 修士課程・夜間の開設科目

コース	履修区分	科目名	単 位	履修年次	修了所要単位	
企業家養成	論文指導科目（必修）	企業家養成演習	2	2年次必修	4単位以上	20単位以上
	選択必修科目	ワークショップ（企業家養成） 企業家活動 企業家史 経営戦略論 ベンチャー・ファイナンス論 ベンチャー・ビジネス監査論 イノベーション・マネジメント概論 製品開発論 企業間関係論 企業家養成特殊研究	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 2・4	1～2年次	16単位以上	
国際経営	論文指導科目（必修）	国際経営演習	2	2年次必修	4単位以上	20単位以上
	選択必修科目	ワークショップ（国際経営） 国際経営論 地域経済研究（アジア・アメリカ・EU） 国際人事 国際マーケティング論 国際物流論 国際会計論 国際金融論 開発経済論 A（経済学専攻（夜間）設置科目） 開発経済論 B（経済学専攻（夜間）設置科目） 国際経営特殊研究	4 4 4 2 2 4 4 4 2 2 2 2・4	1～2年次	16単位以上	
人材・組織マネジメント	論文指導科目（必修）	人材・組織マネジメント演習	2	2年次必修	4単位以上	20単位以上
	選択必修科目	ワークショップ（人材・組織マネジメント） 人的資源管理論 人材育成論 キャリアマネジメント論 人事制度論 労働市場論 労使コミュニケーション論 国際人事 経営組織論 組織行動論 経営情報論 人材・組織マネジメント特殊研究	4 4 4 4 4 4 4 2 4 4 4 4 2・4	1～2年次	16単位以上	
マーケティング	論文指導科目（必修）	マーケティング演習	2	2年次必修	4単位以上	20単位以上
	選択必修科目	ワークショップ（マーケティング） マーケティング論 消費者行動論 マーケティング・リサーチ論 製品開発論 マーケティング・サイエンス論 サービス・マネジメント論 流通システム論 物流政策論 国際マーケティング論 国際物流論 マーケティング特殊研究	4 4 4 4 4 4 2・4 4 4 2 4 2・4	1～2年次	16単位以上	
アカウンティング・ファイナンス	論文指導科目（必修）	アカウンティング・ファイナンス演習	2	2年次必修	4単位以上	20単位以上
	選択必修科目	ワークショップ（アカウンティング・ファイナンス） 管理会計論 財務会計論 国際会計論 税務会計論 会計情報論 経営分析 租税法 基礎ファイナンス 実証ファイナンス入門 インベストメント理論 コーポレート・ファイナンス 企業評価論 アカウンティング・ファイナンス特殊研究	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 2・4 4 4 2・4	1～2年次	16単位以上	
コース共通	選択科目	経営学基礎 会計学基礎 ファイナンス入門 経済学基礎 産業基礎 日本経済論 日本経済基礎 情報科学基礎 情報学特論 情報技術特論 e-ビジネス論 統計データ解析 企業法 日本語経営学 外国語経営学特殊研究 外国語経営学特殊講義 1 外国語経営学特殊講義 2	2・4 2 2 2 2 4 2 2 2 2 2 4 4 4 4 2 2 2	1～2年次	10単位以上（所属コースの選択必修科目のうち16単位を超える単位、他コース選択必修科目、昼間設置科目（2科目）を含む。さらに、他専攻設置科目・他大学院科目は、10単位を上限に含む）	合計30単位以上

### 3. 開設科目および単位について

1. 所属コースの「演習」の修得単位は、4単位までを修了所要単位に算入することができますが、4単位を超えて修了所要単位に算入することはできません。なお、「演習」は修論指導のために設置されている科目なので、他専攻及び他コースの学生は履修できません。
2. 「演習」の履修年次は2年次です。1年次生は履修できません。ただし1年次でも、修学期間(休学期間は含まない)が既に2セメスター分(通算して1.0年在学)に達した場合は、履修することができます。例えば、入学年度に半期休学した場合、進級条件を満たす学年数に達せず翌年度も引き続き1年次生として在学することになりますが、この2年目の1年次の春学期を終えた時点で、修学期間は2セメスターに達するため、この年度の秋学期から「演習」を履修することができます。  
この条件が適用される1年次生で、「演習」の履修を希望する学生は、履修登録手続き期間中に大学院課窓口申し出て、所定の手続きを取ってください。  
なお、2年次生で前年度休学しており、演習科目の担当教員名欄に指導教員の記載がない場合には、指導教員と事務へ至急に連絡の上、履修登録について確認してください。
3. 「演習」の時間割は一律土曜6限に設定します。同じ時限に別の授業科目の履修を希望し時間割が重複する場合は、指導教員にご相談ください。
4. 所属コースの「ワークショップ」の修得単位は、8単位まで選択必修科目として修了所要単位に算入できます。また、それを超える修得単位は選択科目として修了所要単位に算入できます。「ワークショップ」は、複数のコースによって合同で開催されることがあります。なお、マーケティングコースに所属する学生は「ワークショップ」を2年間にわたり履修することを原則とします。
5. 所属コースの「演習」と「ワークショップ」以外の科目について、同名科目を2回以上履修した場合、1回の履修によって得た修得単位を超えて修了所要単位に算入することはできません。したがって、たとえば、「人材・組織マネジメント特殊研究」を2回以上履修した場合、たとえそれらの担当教員あるいは授業内容が異なっても、1回の履修によって得た修得単位のみ修了所要単位に算入することができます。なお、修得単位数が異なる同名科目を2回以上履修した場合は、もっとも多い修得単位数を修了所要単位に算入することができます。
6. 他コースの設置科目は、「演習」を除いて自由に履修し、選択科目として修了所要単位に算入することができます。

### 4. 修士課程・昼間、および他専攻・他大学設置科目の履修について

1. 経営学専攻修士課程・昼間の設置科目は、2科目まで履修し、選択科目として修了所要単位に算入することができます。
2. 以下の注意事項の規定にかかわらず、法政大学大学院学則により、他専攻及び他の大学院で修得した単位は、合計して10単位を超えて修了所要単位に算入することはできません。
3. 経済学研究科の設置科目は、担当教員の承認を得れば履修することができ、8単位まで選択科目として修了所要単位に算入することができます。
4. キャリアデザイン学専攻、イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻の設置科目は、担当教員の承認を得れば履修することができ、10単位まで選択科目として修了所要単位に算入することができます。
5. 政治学専攻夜間コースの設置科目は、担当教員の承認を得れば、10単位まで履修し、選択科目として修了所要単位に算入することができます。
6. 他の専攻で開講されている科目を履修した場合、それが経営学専攻で開講されている選択必修科目名と同一であっても選択必修科目としては読み替えられませんので注意してください。

### 5. 関西学院大学大学院との履修交流について

経営学専攻修士課程(夜間)においては、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科と修士課程学生の授業科目履修交流および転学制度の協定を結んでいます。

#### A. 履修交流

##### (1) 履修交流申請

- ① 大学院事務部に所定用紙を受け取り、必要な手続きを行ってください。
- ② 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科の講義要項・時間割は、大学院課窓口で閲覧することができます。
- ③ 聴講料は、1科目につき2,000円です。

##### (2) 単位認定

履修した授業科目の単位は、修了要件である30単位のうち、課程修了に必要な単位として2科目8単位を限度に認定します。

#### B. 転学制度

本学大学院学生が勤務先における転勤等のため関西地区へ異動となった場合、指導教員の承認を得て関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科に転学できる制度を設けています。

なお、詳細については、「大学院履修交流に関する協定書」(大学院課窓口で閲覧)を参照してください。

## <経営学専攻 論文執筆の手引き>

### 1. 論文執筆にあたって

#### (1) 著作権問題

修士論文は社内文書等と異なり、社会的に公表されることを前提とした著作物である。優れた評価の修士論文は成果集に取められ、公表される。したがって、①他人の文章を丸写しにする、②他人の研究結果や意見を引用なしに利用する、③図表を無断でコピーする、の行為は、「盗作」に該当し、著作権法違反という重大な犯罪行為として罰せられる。文章は自分自身で考え、自分の言葉で表現することが論文執筆の前提となる。また図表もデータの集計方法を考え、自分なりの工夫をすることが必要であり、公表データを利用する場合は、出所を明記することが不可欠である。

#### (2) 社内文書の取り扱い

自社であれ、他社であれ、企業の内部データや文書の取り扱いには注意されたい。特に、社会人が社内データを使用する場合、たとえ担当部門の了解を得ていても、それが公表された結果の反応は予想外のものとなる可能性がある。そうしたトラブルを回避するためには当事者の了解とともに、企業を特定できない形の処理等の配慮が必要となる。

### 2. 論文の様式

- (1) 論文は日本語で書くこととする。但し、指導教員が認めれば、論文を英語で書くことができる。
- (2) ワープロ原稿を原則とし、横書きとする。日本語は全角で、英語はローマ字の半角、年号や数字は算用数字の半角とする。
- (3) A4判で40字×36行。修士論文は400字詰め原稿用紙換算50枚以上（目次、本文、図表、参考文献を含む）、つまり2万字以上であるから、A4判40字×36行で14枚以上となる。また論文要旨は2000字以内。
- (4) 印刷の様式については、「片面印刷」「両面印刷」のどちらでも構わない。

### 3. 論文の構成

- (1) 論文の構成は論文の課題と分析アプローチにより微妙に異なるが、一般的には大きく、①問題の設定（はじめに）、②先行研究のレビュー、③研究内容、④結論、の4部構成が考えられる。以下を参考に、自分の研究課題とアプローチにふさわしい独自の構成・スタイルを工夫されたい。
- (2) 「はじめに」では、問題の所在、論文の目的（何を明らかにしようとするのか）について触れる。また2節（または章）以下の構成について簡潔に説明することは読み易さを増す。
- (3) 「先行研究のレビュー」は、各研究の要約を羅列するのではなく、論点について自分自身で整理し、論文の課題に即してまとめることを目指して欲しい。その努力から、論文の意義や分析枠組が導き出される可能性が高まる。
- (4) 「研究内容」は理論研究か実証研究か、また実証研究であれば、計量モデル分析、歴史的分析、事例研究等の分析アプローチがある。また理論、実証研究を基に、経営戦略立案など規範的研究を行う者もいる。自分の採用するアプローチは何かを明確にすると、論述しやすくなる。
- (5) 「結論」では、論文で明らかにされた結論（ネット・コントリビューション）を簡潔にまとめること。またまだ解決されていない問題については、今後の研究課題として触れる。
- (6) 節（または章）は1.、2.、として、また項は1. 1.、1. 2.とすることが考えられる。また論文末尾に参考文献一覧を付けること。

### 4. 引用

引用は、著作権保護および自説と他説を峻別するうえで、極めて重要な論文作成上のルールである。

- (1) 他人の文章を直接、引用する場合には、本文中の該当個所に、執筆者名（西暦発行年、引用頁）を示し、必ず括弧で囲って引用する。文献名は章末の参考文献に一括して表示する。  
(例) 小林（1997、p.63）によれば、「……………」である。  
あるいは、「……………」（小林〔1997、p.63〕）。
- (2) 他人の研究成果や意見を参考にした叙述である場合には、依拠した文献として該当個所に、上記に準じて明記する。  
(例) 既存研究によれば、AはBであることがわかっている（小林〔1997、p.63〕、林〔1999、第3章〕）。

### 5. 注

該当個所を更に詳説する場合、またそれに関連する他人の文章や内容について本文以外で言及する場合には、各頁に脚注を付けるか、もしくは論文末尾にまとめて、注を付ける。該当個所の右肩に（1）、（2）というように注番号を入れ、通し番号とする。

(例) 本文中：○○○<sup>(1)</sup>

論文末：注（1）この点について小林（1992、pp.166-172）は、○○の角度から直接投資の有効性を指摘している。

## 6. 図表

図表は自分自身で書き、本文の該当個所に挿入するか、論文末に掲げること。1頁大は約800字相当、半頁大は約400字相当、4分の1頁大は約200字相当、6分の1頁大は130字相当となる。統計データは原資料に基づき自ら作成するか、引用することが望ましい。やむを得ず「孫引き」する場合は、出所と同時に、原資料の出所を明記すること。

図表は一つずつ通し番号を付け、タイトルとともに下注に資料名または出所名を書く。

(例) 表1. 通貨供給増加率の変遷

(資料) 日本銀行『経済統計月報』から作成—自分でデータ加工をした場合

(出所) 日本銀行『経済統計月報』—自分でデータ加工をしない場合

(出所) 林 [1999, p.63]、原資料は日本銀行『経済統計月報』—「孫引き」の場合

## 7. 参考文献

参考文献は本文や注などで引用または言及したものに限定し、無関係の文献をあげないこと。論文の最後に、邦語の参考文献はあいうえお順に、英語の参考文献はアルファベット順に、それぞれ一括して表示する。記載内容は、以下の順とする。

- ・著者名
- ・西暦発行年（かっこで囲む）
- ・論文名（和文献は「」、洋文献は“ ”を付け、ページ数を書く。）
- ・書名、雑誌名（和書は『』で囲み、洋書はイタリック体とする。）
- ・出版社名

(例) 清成忠男 (1993) 『中小企業ルネッサンス』有斐閣

国友直人 (1996) 「構造変化と単位根・共和分仮説」『金融研究』日本銀行金融研究所、第15巻5号、1-43.

Tobin, J. (1969) "A General Equilibrium Approach to Monetary Theory," *Journal of Money, Credit, and Banking*, Vol.1 No.3, pp. 15-29.

なお、参考文献リストの作成は、分野・執筆者によっては、

(例) 清成忠男、『中小企業ルネッサンス』有斐閣、1993年

と表記されることもある。その場合でも、引用、注では、清成 (1993) と書くものとする。

## 企業家養成演習

稲垣 京輔、金 容度、近能 善範、福島 英史、  
吉田 健二

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

### 【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

### 【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に90分間、あるいは、隔週土曜日に3時間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2～3回	プロポーザルの作成指導	修士論文のテーマと執筆計画の概要を検討する。
第4～12回	先行研究と調査方法の検討	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第13～14回	中間発表の準備	企業家養成コースで行われる中間発表会の準備を行う。
第15回	中間発表の反映	中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。
第16～23回	調査の実施状況の確認と分析結果の検討	調査状況及び分析結果を報告し、助言を受ける。
第24～28回	修士論文執筆のチェックと助言	修士論文の執筆内容に関してチェックと助言を受ける。
第29～30回	修士論文の最終チェック	修士論文の内容に関して最終的なチェックを受ける。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 修士論文のテーマ及び問題関心を整理する。

第2～3回 修士論文の目次、執筆計画の概要などを文章化する。

第4～12回 修士論文のテーマに関連する先行研究を検討すると共に、資料収集や調査を行う。また、毎回、その内容をもとに、指導教員及び演習参加学生に報告できるようにレジュメを作成する。

第13～14回 修士論文の中間発表会の資料を準備する。

第15回 中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。

第16～23回 より具体的な調査を行う。調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。

第24～28回 修士論文を執筆し、指導教員の助言を反映する。

第29～30回 修士論文の最終的な完成を目指す。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

### 【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）

### 【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、出席（50%）、発表・報告（50%）。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）である。発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

### 【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

## ワークショップ（企業家養成）

吉田 健二

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ワークショップは、現在活躍されている企業家をお招きして、毎年設定したテーマに関する講演とその後の質疑応答やディスカッションを通じて企業家活動について理解を深めます。今年度のテーマは「企業家の現実」です。

### 【到達目標】

企業や事業を起こされた経緯や動機とそのときの苦勞や問題点、現在までに実際に直面した経営上の問題点や課題とその解決方法などについての企業家の講演と、その後の質疑応答やディスカッションを通じて、「企業家の現実」を説明できるようになることが目標です。企業家としての心構えを理解するほか、オールラウンドに様々な専門知識を関連づけて身につけて下さい。

### 【授業の進め方と方法】

企業家養成コースは1992年に開講され、既に25年が経過しました。その間に、企業家として独立を果たされた人、既存企業の後継経営者になられた人、既存企業の内部において新規事業を起こされた人など、多くの方が各界で活躍されています。今年度のワークショップは、ゲスト・スピーカーとして企業家養成コースを卒業された方々をお招きしてお話をうかがい、その後に質疑応答やディスカッションを行うことによって、「企業家の現実」の理解を深めます。

ワークショップでは、学生が積極的に質問して、ゲスト・スピーカーの生の声を聞き出すようにして下さい。

なお、ワークショップで学んだことをA4サイズで1枚のレポートにまとめ、次の週までに提出してもらいます。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と進め方等の説明
第2回	ゲスト・スピーカー①	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第3回	ゲスト・スピーカー②	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第4回	ゲスト・スピーカー③	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第5回	ゲスト・スピーカー④	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第6回	ゲスト・スピーカー⑤	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第7回	ディスカッション①	上記5回についてのディスカッション
第8回	ゲスト・スピーカー⑥	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第9回	ゲスト・スピーカー⑦	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第10回	ゲスト・スピーカー⑧	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第11回	ゲスト・スピーカー⑨	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第12回	ゲスト・スピーカー⑩	「企業家の現実」に関する講演とディスカッション
第13回	ディスカッション②	上記5回についてのディスカッション
第14回	まとめ	授業のまとめ
第15回	修士論文の中間発表	企業家養成コースの2年生による修士論文のテーマや問題意識等の発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネット等を使って、事前にゲスト・スピーカーやその企業について調べておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。

### 【参考書】

参考書は特に使用しませんが、ゲスト・スピーカーが書かれた著書等があれば、第1回目の授業で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

配分：レポート提出（50%）、出席およびディスカッションへの貢献（50%）

評価基準：単位取得のためには、7回以上のレポート提出が求められます。

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していません。

### 【その他の重要事項】

ゲスト・スピーカーや具体的な講義スケジュールは、第1回目の授業で説明します。

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域>経営戦略論

<研究テーマ>経営戦略の策定と実行

<主要研究業績>

① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).

② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).

③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).



## 企業家活動

稲垣 京輔

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外で発展してきた起業家やベンチャーに関する経営学、社会学研究の理論的枠組みや事例を参照しながら、事業創造の担い手である起業家の活動の実態について明らかにします。そしてそこから、近年の日本にみられる組織現象に対して、より深い理解力、観察力を養うことを目的とします。

### 【到達目標】

毎回、講義の後半部分から新たなテーマについて講義をおこない、翌週の前半部分では、課題を報告しあうことによって、分析方法を学びあい議論を深めます。

授業後半の目標は、すぐれた文献を読むことによって、問題の捉え方と分析視角の設定を中心に、修士論文を執筆する上で必要な知識を習得します。

### 【授業の進め方と方法】

講義部分においては、次の3つの分析視角に基づいて、企業家活動を分析する視点を養います。最初の3回は、「合理的意思決定プロセスとしての企業家活動」、次の3回は「環境適応プロセスとしての企業家活動」そしてその次の3回は「利害関係の超越としての企業家活動」をテーマとします。これら3つの主要テーマにおいて、事業創造にかかわるさまざまな経営現象を考察します。最後の5回は、テキストを輪読し、事例研究をおこなう上で必要な理論的ツールを身につけます。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス授業	自己紹介 問題関心の設定と導入講義
第2回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動1	事業創造における市場獲得のプロセス
第3回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動2	事業創造における組織内部のマネジメント
第4回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動3	社内ベンチャーと企業家支援プログラム
第5回	環境適応プロセスとしての企業家活動1	企業家活動の正当性と資源動員
第6回	環境適応プロセスとしての企業家活動2	制度的企業家とは何か
第7回	環境適応プロセスとしての企業家活動3	社会的関係の調整と企業家のエフェクチュエーション
第8回	利害関係の超越としての企業家活動1	社会的ネットワークとソーシャルキャピタルの構築
第9回	利害関係の超越としての企業家活動2	企業家の協働と学習
第10回	利害関係の超越としての企業家活動3	場づくりとしての企業家活動=点から面へ
第11回	テキストの輪読1	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第12回	テキストの輪読2	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第13回	テキストの輪読3	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第14回	テキストの輪読4	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第15回	ラップアップ	企業家活動の分析視角を再度レビューする

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、グループ毎に課題を提出し、報告してもらいます。

### 【テキスト（教科書）】

田村正紀『経営事例の物語分析』白桃書房。

### 【参考書】

金井壽宏『起業家ネットワークの世界』白桃書房。

佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社。

長谷川博和『ベンチャーマネジメント入門』日本経済新聞社。

山岡徹『変革とパラドックスの組織論』中央経済社

W. ベーカー『ソーシャル・キャピタル』ダイヤモンド社。

S. サラスバシー『エフェクチュエーション』中央経済社。

J.R. カッツェンベルグ『インフォーマル組織力』税務経理協会 他

### 【成績評価の方法と基準】

配分

評価基準

出席点 (20 点)

報告点 (60 点)

積極的なコミットメント (プラス a)

出席点は、ただ出席するだけでは評価の対象にならず、議論への積極的な参加によって加点します。報告点は、課題に応じたケースを検索し、分析の深さによって判定します。また、質問点は、論点を定め、議論をどれだけ盛り上げることができるかによって判定します。

### 【学生の意見等からの気づき】

後半の輪読では、受講者の間でもディスカッションができるように、いくつかの論点を提示します。

### 【学生が準備すべき機器他】

各自、報告の際には、データを入れたメモリーか、あるいはパソコン本体を持参してください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>組織社会学、経営組織論

<研究テーマ>企業間協力における能力構築と産業クラスター形成に関する研究

<主要研究業績>

稲垣京輔・高橋勲徳 (2010) 「産業クラスター形成における地理的近接に基づく関係構築プロセス:大阪扇町界隈におけるインキュベーション・マネジャーとクリエイター間の関係性の変化」『組織科学』第44巻, 第3号, 21—36頁。

高橋勲徳・稲垣京輔 (2015) 「我が国における産業クラスター政策の推進による組織フィールドの形成:大阪市扇町界隈における扇町クリエイティブ・クラスターの形成」『経営と制度』第13号, 25—46頁。

## 企業家史

### 二階堂 行宣

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義は、市場経済の均衡を破壊・創造する力を持つ「革新」の遂行者である企業家に注目することで、経済発展の長期的なダイナミズムを考察することを目的とする。

・J. シュンペーターは『経済発展の理論』（1912年）において、企業家を「創造的破壊」による「新結合」の実現者と定義し、企業家の「革新」行動によって均衡状態が攪乱されることで経済発展のダイナミズムが生じるとした。さらにA. H. コールらは、企業家の非連続的・飛躍的側面だけでなく、連続的・漸進的な側面にも注目し、均衡から均衡を創り出すこと（創造的破壊）だけでなく、不均衡から均衡に向かう過程（競争）によって経済発展が生み出されると論じた。

・こうした企業家史をめぐる理論・仮説は、実際の歴史の中でどのように観察されるのだろうか。本講義では、企業家の革新行動とその定着過程としての企業発展を、具体的な事例に基づきながら、長期的歴史的な文脈の中で考えていきたい。

#### 【到達目標】

・近現代日本の経済・経営発展の歴史について知識を習得し、企業家活動の前提となるそれぞれの時代の経済環境を、明確に把握する。

・その上で、企業家がある時代背景と外部環境の中で、どこにビジネス・チャンスを見出し、それをいかにして掴もうとしたのか、ケース・スタディを用いながら考える。

・以上を通して、長期的な視野にもとづく戦略的行動とは何かを学び、歴史的な思考様式を身につける。

#### 【授業の進め方と方法】

・講義と、それに基づくディスカッションを組み合わせる。参加者による調査やプレゼンテーションも、随時取り入れる。

・各時代ごとに「時代背景 → ビジネス・チャンスの出現 → 企業家活動 → 企業の発展」という一連の流れを捉える。

・自主研究の参考のため、研究動向の紹介と文献リストの提示も併せて行う。

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	企業家分析への歴史的視点
第2回	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
第3回	幕末維新期の経営	新興商人の登場
第4回	幕末維新期の経営	遠隔地交易の活性化
第5回	幕末維新期の経営	「大店」の明治維新
第6回	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
第7回	明治前期の経営	政商の登場①
第8回	明治前期の経営	政商の登場②
第9回	明治前期の経営	企業者活動の組織化
第10回	幕末維新期・明治前期のまとめ	ケース・スタディをふまえ、幕末維新期・明治前期の企業家活動の特徴について議論する
第11回	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
第12回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭①
第13回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭②
第14回	産業革命期の経営	地方からの産業革命
第15回	産業革命期のまとめ	ケース・スタディをふまえ、産業革命期の企業活動の特徴について議論する
第16回	第一次世界大戦期の経営	概説：第一次大戦ブーム
第17回	第一次世界大戦期の経営	大戦ブームと商社
第18回	第一次世界大戦期の経営	バブルへの対応
第19回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済①
第20回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済②
第21回	両大戦間期の経営	都市型産業の登場
第22回	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの成長
第23回	第一次世界大戦期・両大戦間期のまとめ	ケース・スタディをふまえ、第一次大戦期・両大戦間期の企業家活動の特徴について議論する
第24回	戦時復興期の経営	概説：戦時統制経済から戦後改革へ
第25回	戦時復興期の経営	軍需産業の発展と崩壊

第26回	戦時復興期の経営	陸運における鉄道復権
第27回	高度経済成長期の経営	概説：高度経済成長と大衆消費社会
第28回	高度経済成長期の経営	流通革命
第29回	高度経済成長期の経営	東海道新幹線計画
第30回	戦時から高度経済成長期のまとめ	ケース・スタディをふまえ、戦時復興期・高度経済成長期の企業家活動の特徴について議論する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義内容をふまえたディスカッションでは、積極的に発言することが求められる。

・ケース・スタディの学習においては、参加者による文献・資料調査やプレゼンテーションを実施する。

#### 【テキスト（教科書）】

・使用しない。

#### 【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004年）。
- ②宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史〔新版〕』（有斐閣、2007年）。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010年）。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011年）。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第3版）』（東京大学出版会、2012年）。
- ⑥相谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012年）。
- ⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013年）。
- ⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016年）。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（50%）とレポート（50%）の併用。
- ・レポート課題は授業の最後に指示する。
- ・成績評価の際は、企業家に関する知識の習得度よりも、企業家活動を長期的視野から体系化し、俯瞰的に説明する能力の涵養度を重視する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

・本年度からの新規担当につき、アンケートを実施していない。

#### 【学生が準備すべき機器他】

・なし

#### 【その他の重要事項】

・なし

#### 【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
- ・日本経済史
- ・日本経営史
- <研究テーマ>
- ・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究
- ・オーラル・ヒストリー
- <主要研究業績>
- ・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49巻4号、3-24頁。
- ・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32号、17-30頁。

## イノベーション・マネジメント概論

### 近能 善範

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。イノベーションは、われわれの生活を一変するインパクトを有するばかりでなく、企業や経済が持続的に成長していくために必要不可欠な役割を果たします。

こうしたイノベーションを実現していく上では、一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激しい競争に勝ち残っていくためのマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、単なる技術マネジメントを超えた、組織や戦略に対する深い理解と実践が問われることになります。

そこで本講義では、こうしたイノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる組織論・戦略論の考え方や概念などを、基礎から最新の理論まで含めて幅広く身につけて、実践できるようになっていたきたいと考えています。

#### 【到達目標】

イノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる考え方や概念などを身につけて、実践できるようになること。

#### 【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、前半に講義を行い、後半は受講生の発表と全員参加の議論を行う、という構成にする予定です。

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イノベーション・マネジメントとは何か、なぜ重要なのかについて学ぶ
2	モチベーションとインセンティブのマネジメント	モチベーションとインセンティブのマネジメントについて学ぶ
3	グループと人的ネットワークのマネジメント	グループと人的ネットワークのマネジメントについて学ぶ
4	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメント	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメントについて学ぶ
5	組織構造と組織デザイン	組織構造と組織デザインのマネジメントについて学ぶ
6	組織学習と知識創造のマネジメント	組織学習と知識創造のマネジメントについて学ぶ
7	組織文化と組織変革のマネジメント	組織文化と組織変革のマネジメントについて学ぶ
8	全社戦略	全社戦略について学ぶ
9	競争戦略①	ポジショニング戦略と資源・能力ベースの戦略について学ぶ
10	競争戦略②	個別戦略とビジネスシステムの戦略について学ぶ
11	新製品開発のマネジメント	新製品開発のマネジメントについて学ぶ
12	企業間関係のマネジメント	企業間関係のマネジメントについて学ぶ
13	イノベーションと企業の競争力①	ラディカル・イノベーションと企業の競争力について学ぶ
14	イノベーションと企業の競争力②	さまざまなタイプのイノベーションと企業の競争力について学ぶ
15	グループワーク発表	学んだ知識をもとに受講生が事例分析を行い、発表を行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。

#### 【テキスト（教科書）】

・近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

・その他に、パワーポイントのレジュメ（毎回）、補助テキスト（適宜）、ケース（適宜）を配布します。

#### 【参考書】

参考書は特にありません。必要があれば、講義の中で適宜指定します。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・下記の合計で、成績を評価する予定です。
  - ―出席+毎回のレポート提出（A4 で 1/4～1 枚程度の簡潔なもの）が 40 %
  - ―授業内での発表（1～2 回予定）が 20 %
  - ―授業内でのディスカッション参加（毎回）が 15 %
  - ―期末のグループワーク発表が 25 %
- ・3 分の 2 以上の出席を最低ラインとします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

タイムコントロールに注意します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料の配付を、法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

#### 【その他の重要事項】

上記「授業計画」に記載したスケジュールは 2010 年度のものであり、本年度は変更される場合があります。授業の詳細なシラバスは、第 1 回目の講義の際に配布します。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論

<研究テーマ>

イノベーションと企業間関係

<主要研究業績>

- 1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）、新世社、2010 年。
- 2.「日本自動車産業における関係の技能の高度化と先端技術開発の深化」、『一橋ビジネスレビュー』, 54 巻 4 号, 2007 年 3 月。
- 3.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」, 『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002 年 3 月。

## 企業間関係論

### 金 容度

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本を中心に世界各国の企業間関係の歴史と現状を分析・ディスカッションする

#### 【到達目標】

- ①世界各国、多様な産業の企業間関係の事例(現状と歴史)を比較検討することによって、現実の企業間関係の多様性と共通性を統一的に理解できるようにする。
- ②現実の企業経営において企業間関係がどのような意義・意味をもつかを立体的に理解できるようにする。

#### 【授業の進め方と方法】

第1回目は、今学期の授業のイントロダクションを行うと共に、日本の企業間関係の概要を講義する。第2回目の授業では、企業間関係の理論枠の概要を取り上げる。第3回～第5回の授業では、日本の企業間関係の特徴を分析する重要な文献を取上げ、ディスカッションする。第6回～第10回では、国際比較の観点から企業間関係の現状と歴史を検討する。具体的な対象地域は、日本、アメリカ、ドイツ、韓国、中国である。第11回～第14回では、企業間関係が、生産、産業組織、設備投資、開発などの企業活動とどのような関連をもつかを、個別事例から検討する。最後の15回目では、「中間組織論」を取上げ、企業間関係の理論化の試みを検討する。

なお、毎回の授業の冒頭で、取上げられる論文の理論的・実証的背景について解説する。

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、日本の企業間関係	授業の進め方と視角、授業で取り上げる文献内容やその趣旨を案内した上で、日本の企業間関係の概要について講義する。
2	企業間リレーションシップ	企業間関係を見る基本的な理論を検討する。
3	企業間関係と信頼	日本の企業間関係の特徴を、信頼という概念を中心に検討する。
4	日本の企業間関係の形成・洗練プロセス	日本の企業間取引の特徴が形成・洗練されたプロセスや論理を分析・議論する。
5	企業間関係と関係的技能	関係的技能という視点から、日本のサプライヤーシステムの特徴を議論する。
6	企業間関係の国際比較の視点について	日米の共通点を中心に企業間関係の国際比較の視点についてディスカッションする。
7	日米のサプライヤーシステムの比較	自動車部品を対象に、日米の企業間取引を比較する。
8	日独のサプライヤーシステムの比較	自動車部品を対象に、日独の企業間取引を比較する。
9	日韓のサプライヤーシステムの比較	自動車部品を対象に、日韓の企業間取引を比較する。
10	日中の企業間関係の比較	市場の組織化という視点から、中国の金型産業における企業間関係を検討する。
11	企業間関係と生産の関連	NC 工作機械の導入事例を中心に、企業間関係と生産の関連を検討する。
12	企業間関係と産業組織	液晶部材産業を取上げ、産業組織と企業間関係の関連を考察する。
13	企業間関係と設備投資	戦後日本の鉄鋼業の事例を取上げ、企業間関係と設備投資の関連について分析する。
14	企業間関係と製品開発	半導体の共同開発の事例を取上げ、企業間関係と製品開発の関係を考察する。
15	企業間関係における市場原理と組織原理	「中間組織論」を中心に、企業間関係の理論を検討する。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業支援システムにアップロードされる毎週の事例論文を必ず事前に読むと共に、その論文の重要論点について考えてみてから授業に参加すること。

#### 【テキスト (教科書)】

本授業では教科書は使わず、毎週、一つずつの事例論文を取り上げる。論文のリストは最初の授業で配布する。なお、毎回授業の事例論文は事前に授業支援システムにアップロードする。

#### 【参考書】

- ①橋本寿朗編『日本企業システムの戦後史』東京大学出版会、1996年
- ②浅沼万里『日本の企業組織 革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997年
- ③金 容度「日米企業システムの比較史序説(1)」の企業間取引『経営志林』(法政大学経営学会)第50巻第1号、2013年
- ④金容度『日本 IC 産業の発展史』東京大学出版会、2006年

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、出席(20%)、授業での報告(50%)、議論への参加(30%)である。試験やレポート提出は行わず、授業での報告及び議論への参加を重視する。特に、報告に関しては、授業で取り扱う文献を要約するだけでなく、自分の視点から企業間関係についての問題提起を行う報告が高い評価を得られる。単位取得のための最低授業出席数は授業回数の3分の2である。

#### 【学生の意見等からの気づき】

今年度には、ディスカッションの時間を増やす。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本経営論、日本経営史、日本経済史  
 <研究テーマ> 企業間関係の国際比較、企業システムの日米比較など  
 <主要研究業績>  
 <主要研究業績>① The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan. Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd., 2015. ② "Inter firm Cooperation in Japan's Integrated Circuit Industry, 1960s-1970s", Business History Review (Harvard Business School), Vol. 86 Issue 4, 2012. ③ 『日本 IC 産業の発展史- 共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006。

## 国際経営演習

藤澤 利治、李 瑞雪

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会人夜間修士課程2年次生を対象に、国際ビジネスに関する修士論文作成を目指すための研究指導を行います。前年度末に行われる研究プロポーザルをもとにしてコース単位で担当の指導教員が決定されています。コースを単位として配属の決まった院生が履修する科目です。

### 【到達目標】

一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、修士論文に役立てます。

### 【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なりますが、履修生の論文作成進捗状況に応じて、土曜日を利用したゼミや平日の夜間を利用した個別指導が一般的となっています。なお、修士論文の執筆を予定している1年次生は、毎年1月に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また、修士論文を作成する2年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告する義務を負うものとします。なお、本演習は、2単位科目ですが、修了のためには4単位が必要です。そのため、通常は通年科目のように30回の授業が予定されています。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を策定する。
第2回	プロポーザルの作成指導①	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	プロポーザルの作成指導②	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の検討③	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討④	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討⑤	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第10回	調査方法の検討②	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第12回	調査方法の検討④	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第13回	調査方法の検討⑤	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第14回	中間報告の準備①	所属コースで行われる中間報告会での報告の準備を行う。
第15回	中間報告の準備②	所属コースで行われる中間報告会での報告の準備を行う。
第16回	調査の実施状況の確認①	学生が調査状況を報告し、アドバイスを受ける。
第17回	調査の実施状況の確認②	学生が調査状況を報告し、アドバイスを受ける。
第18回	調査の実施状況の確認③	学生が調査状況を報告し、アドバイスを受ける。
第19回	調査の実施状況の確認④	学生が調査状況を報告し、アドバイスを受ける。
第20回	調査の実施状況の確認⑤	学生が調査状況を報告し、アドバイスを受ける。
第21回	調査結果の検討①	調査結果の分析に関する助言を行う。

第22回	調査結果の検討②	調査結果の分析に関する助言を行う。
第23回	調査結果の検討③	調査結果の分析に関する助言を行う。
第24回	修士論文執筆への助言①	修士論文の内容に関して助言を行う。
第25回	修士論文執筆への助言②	修士論文の内容に関して助言を行う。
第26回	修士論文執筆への助言③	修士論文の内容に関して助言を行う。
第27回	修士論文執筆への助言④	修士論文の内容に関して助言を行う。
第28回	修士論文執筆への助言⑤	修士論文の内容に関して助言を行う。
第29回	修士論文の最終チェック①	修士論文の内容に関して最終的な助言を行う。
第30回	修士論文の最終チェック②	修士論文の内容に関して最終的な助言を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 修士論文のテーマを構想する。
- 第2～3回 修士論文のテーマと執筆計画の概要を作成する。
- 第4～8回 テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
- 第9～13回 具体的な調査方法を考案する。
- 第14～15回 中間報告のための資料を作成する。
- 第16～20回 具体的な調査を行う。
- 第21～23回 調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
- 第24～28回 修士論文を執筆し、指導教員の助言を反映させる。
- 第29～30回 修士論文の最終的な完成を目指す。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、指導教授が発表した著作、論文を読破しておくことで、指導の具体的な内容が理解可能になります。

### 【参考書】

- ① 洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロップメント』白桃書房、2008年。<とくに第11章。>
- ② 小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。
- ③ 小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ―「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

### 【成績評価の方法と基準】

配分: 出席 (50%)、報告 (50%)

評価基準: 評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、修士論文の評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

### 【学生の意見等からの気づき】

本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。

### 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

### 【その他の重要事項】

本科目を履修する学生諸君には、国際経営論、ワークショップ（国際経営）、地域経済研究を履修しておくことを強くお勧めします。

## ワークショップ（国際経営）

李 瑞雪、後藤 哲郎

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営コースの2017年度ワークショップは、「グローバル企業の現状と国際経営の課題」というテーマを設定します。このテーマに関連する実務家や、本学MBAを修了して国際ビジネスで活躍するOBなどを招いてレクチャーを行ってもらい、質疑応答や議論を通じてテーマに関する理解を深めます。グローバル企業の事例を中心として、企業戦略、国際ビジネス、グローバルM&Aとオペレーション統合、情報と知識などのテーマについて議論します。

### 【到達目標】

ゲスト・スピーカーの講義と、質疑応答、ディスカッションを通して、実務に関する理解を深めるとともに、理論を実務で裏付けて理解し、かつ実務プロセスの必要性を理論で裏付けて理解できるようになることを目標とします。講義の内容についてノートを取り、レポートにまとめる、という作業を通じて、取材内容を文章にまとめる、という社会科学的調査の基礎を学習します。また、様々なゲスト講師によるプレゼンテーションを学びながら、参加学生によるプレゼンテーション技法の学習に役立ちます。

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、実務家を中心としたゲスト・スピーカーによる講演と、担当教員による講義、履修生によるプレゼンテーションから構成されます。ゲスト・スピーカーの講演内容を素材にして、国際経営の最前線で何が生じており、それら事象を経営学の理論からどうとらえるかについて検討します。国際ビジネスにおいて豊富な経験をもつ大手製造企業、情報関連企業の経営者や実務担当者を招へいする予定です。ゲスト講師の講演のほかには、担当教員（李、後藤）は国際経営論、経営戦略論、グローバルM&Aに関する概論的介绍を適宜行う予定です。また、履修生には国際経営の実態分析を中心にショート・プレゼンテーションを行う時間を設けて、ディスカッションを行います。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要とオリエンテーション、担当教員の研究領域紹介。
2	経営戦略論入門。(担当教員による講義)	経営戦略論とは何かについて、二人の教員によって異なる角度から講義を行います。
3	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
4	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
5	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
6	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
7	前半のまとめ。国際経営の基礎理論の紹介。	4人のゲスト講師の講演内容について総括ディスカッションを行います。担当教員により国際経営に関する基礎理論の紹介をします。
8	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
9	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
10	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
11	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
12	担当教員による講義、ディスカッション	ケーススタディによる理論構築や理論検証の方法論の紹介。

- |    |                 |  |
|----|-----------------|--|
| 13 | 履修生によるプレゼンテーション | 関心のある企業の国際経営の取り組みについて、その実態分析を含めてプレゼンします。 |
| 14 | 履修生によるプレゼンテーション | 関心のある企業の国際経営の取り組みについて、その実態分析を含めてプレゼンします。 |
| 15 | 授業内試験           | 授業内試験の実施。                                |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回の授業で紹介するゲスト講師の所属企業の概要を、インターネットサイトを通じて事前に調べておきましょう。
- 履修生自身の関心のある企業2社の国際化への取り組みについて情報収集し、プレゼンに備えて下さい。

### 【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しません。

### 【参考書】

講義中に適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

配分：グループあるいは個人での報告（30%）、ディスカッションへの貢献（40%）、レポート（30%）  
評価基準：毎回の質疑応答での発言や議論、グループあるいは個人での報告、レポートの内容から成績評価を行います。レポートについては講義の中で説明します。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心に合わせたゲスト・スピーカーの招聘をするように心がけます。

### 【学生が準備すべき機器他】

用語確認のための電子辞書およびインターネット利用可能な端末（スマホ、パソコンなど）。

### 【その他の重要事項】

90分×2時限の連続授業です。

### 【担当教員の専門分野等】

李瑞雪

<専門領域>

ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論

<研究テーマ>

新興国市場におけるロジスティクス戦略。中国物流産業の高度化。

<主要研究業績>

- 『中国物流産業論—高度化の軌跡とメカニズム—』白桃書房、2014年。
- 『日本企業物流と供应链管理案例精選』中国财富出版社、2013年。
- 「ロジスティクス戦略論の再検討：新興国市場におけるロジスティクス戦略の理論枠組みに関する予備的考察」『経営志林』（ISSN 0287-0975）第49巻第4号、pp.29-47。
- 『変わる中国変わらない中国』全日出版、2003年。

### 【担当教員の専門分野等】

後藤哲郎

<専門領域>

国際経営組織論、プロジェクト管理論

<研究テーマ>

国際的なソフトウェア開発組織研究

<主要研究業績>

- 「国際的ソフトウェア開発における組織構造遷移と知識移転」国際ビジネス研究学会発表、2008年。
- 「国際的ソフトウェア開発における知識移転・展開—上海オフショア開発調査」『法政大学大学院紀要』論文、2007年。
- 「バーチャル・リサーチ・インスティテュートの可能性とその構築—研究所機能の本質とは何か—」『イノベーション・マネジメント』第2号、法政大学イノベーション・マネジメント研究センター、2005年。
- 「外資系ソフトウェアベンダーの日本市場向け製品導入過程—国際的なソフトウェア製品の開発組織比較—」法政大学大学院修士論文、『法政大学大学院経営学専攻—国際経営コース研究成果集』、2000年。

# 国際経営論

洞口 治夫

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導く方途を研究する学問の総称です。企業の海外進出は、大企業のみならず中小企業にとっても採用される経営戦略になっていますが、本国での戦略やプラクティスをそのまま海外に移転しても、本国と外国との様々な相違のために競争優位を得られない場合も多いでしょう。学生諸君が国際経営論を学ぶことによって、企業経営の国際化に伴うどのような課題があるのかを理解し、さらに、多国籍企業の理論を学習することで、企業経営の理解に役立ちます。

### 【到達目標】

国際経営の理論に基づいて企業経営の実態を理解することで、海外における事業活動を分析する能力を身につけます。多国籍企業の理論を学習し、国際経営における諸問題の理解に役立ちます。MBAの共通言語としての経営戦略論・経営組織論・経営管理論の基礎を学習するとともに、英文でのケースを読み、理解し、議論できる能力を身につけます。『国際ビジネス研究』、『アジア経済』、『Journal of International Business Studies』、『Strategic Management Journal』、『Research Policy』など、国際経営理論を用いて書かれた学術論文を読むスキルを身につけ、さらに高度な研究能力の育成を目指す学生諸君への指針とします。修士論文作成のための研究手法を紹介し、具体的な例とともに研究の手順を理解していきます。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、講義、英文ケースの読解、論文の読解、学生相互の議論、学術的な研究方法の紹介、ビデオ教材の理解といった内容から構成されています。国際経営を理解するために必要な理論を講義した後、ケースや論文の内容を確認し、意思決定課題を学生相互で議論します。講義の中心では、学生が課題についてプレゼンテーションを行い、それについて議論していきます。参加学生の英語力に応じて、それを高める形式での会話やリスニングも随時行っていきます。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要と国際経営論のオリエンテーション
2	国際経営の研究手法	質的調査方法と量的調査方法
3	国際経営を研究するための経営理論 (1)	取引コスト理論、限定された合理性、エージェンシー理論、モラルハザード、機会主義
4	国際経営を研究するための経営理論 (2)	リソース・ベースド・ビュー、経営資源、制度理論
5	企業の国際化理論	内部化理論、OLIパラダイム、PLC理論
6	エントリー戦略としての輸出・輸入	インボイス、輸出信用状の意義、ロジスティクス産業の役割
7	直接投資	エントリー・モードの類型、グリーンフィールド、M&A、エントリー・タイミング
8	ライセンスとOEM	特許、フランチャイズ、ブランド・マネジメント、コンテンツビジネス
9	プラント輸出	エンジニアリング産業、貸借対照表と損益計算書
10	ジョイント・ベンチャー	出資比率の意味、商社の役割、現地企業の配当政策
11	国際提携戦略	グローバル戦略的提携のマネジメント、アライアンス、ネットワーク構築
12	フィージビリティ・スタディ	経済環境、収益性評価、NPV、IRR
13	国際M&Aと撤退	国際M&Aの動機、デューデリジェンス、Post merger integration、参入と退出
14	資産評価と収益性評価	有形資産、無形資産、NPVと不確実性、ROE、ROA
15	復習と授業内試験	基礎概念の復習と学習成果の発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

半期 15 週、2 時間連続の授業であり、90 分授業が 30 回あります。

1,2 回 教科書の購入と構成の理解

3,4 回 国際経営戦略の研究に活用される理論に関する文献の講読

5,6 回 配布文献の講読

7,8 回 教科書の講読

9,10 回 配布文献の講読

11,12 回 グローバル戦略的提携に関する事前調査

13,14 回 教科書の講読

15 回 講義内容の復習

16,17 回 教科書の講読

18,19 回 配布文献の講読

20,21 回 統計学の復習

21,22,23,24 回 参考文献の講読

25,26 回 配布ケースの講読

27,28 回 配布ケースの講読

29,30 回 全講義の復習

### 【テキスト（教科書）】

(1) 原田順子・洞口治夫編著 (2013) 『国際経営（放送大学教材）』放送大学教育振興会。

(2) ハーバード・ビジネススクールの英文ケース：

① *Levendary Café: The China Challenge*. 著者 Christopher A. Bartrett and Arar Han. 製品番号 4357.

② *Language and Globalization: "Englishnization" at Rakuten (A)* 著者 Tsedal Neeley. 製品番号 9-412-002.

これらはハーバード・ビジネススクールのケースです。①②のケースを購入するためには、<http://hbr.org/store> のサイトから case を選択し、タイトルを記入して検索します。有料でPDFを購入できます。購入にはクレジットカードが必要です。

登録ユーザーとなるには、<http://cb.hbsp.harvard.edu/cb/register> のサイトから *Higher Education Individual* に必要事項を記入して register をします。その後、上記のタイトルを入力し、show detail からPDFを購入します。

著作権が保護されていますのでコピーは避けて下さい。

また、そのほかのケースを利用する場合には授業内で指示します。

(3) 洞口治夫 (2009) 『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文真堂。

### 【参考書】

(1) 洞口治夫 『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992 年。

(2) 洞口治夫 『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002 年。

(3) フィリップ・コトラー他著 『ASEANマーケティング-成功企業の地域戦略とグローバル価値創造-』洞口治夫監訳、マクロウヒル・エデュケーション、2007 年。

(4) John Daniels, Lee Radebaugh, Daniel Sullivan, *International Business: Environments and Operations*, 2011, Pearson Education; Global ed of 14th revised ed 版, 2012.

(5) A. C. チャン, K. ウェインライト 『現代経済学の数学基礎 (上)』シーエーピー出版。

(6) 東北大学統計グループ 『これだけは知っておこう！統計学』有斐閣、2002 年。

(7) 岩田暁一 『経済分析のための統計的方法』東洋経済新報社、1983 年。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加（出席と議論への参加）：30%

宿題およびプレゼンテーションなどクラスへの貢献：30%

中間試験：20%

期末試験：20%

中間試験および期末試験は、筆記試験ないしターム・ペーパー（レポート）によって行います。その評価にはペーパー自体とペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含む場合があります。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートからの示唆を要約すると、より高度な理論をよりわかりやすく講義し、学生相互のディスカッションの時間をとることによって記憶に定着させることが要望されているようです。英語での講義、輪読やディスカッションを望む声と、それを難しいと感じる声も混ざっています。英語については基礎的な学力を錬成して応用に結びつけていくことを目指しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネット、授業支援システム、パワーポイントの利用ができるパソコンなど。

### 【その他の重要事項】

この授業を履修する学生諸君には経営学基礎、統計データ解析、経営戦略論の授業を履修することをお勧めします。英語については高校生修了レベルの文法知識と大学生修了レベルの語彙（ボキャブラリー）能力を前提としています。語彙については辞書で補うことが可能でしょう。また、本授業を通じて英語のリスニング、スピーキングの能力養成を試みていきます。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際経営論

<研究テーマ>国際経営論、海外直接投資論、イノベーション政策

<主要研究業績>

① <単著> *Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism*, Edward Elgar Publishing, 2014.

② <査読付き論文> "Decoding symbiotic endogeneity: the stochastic input-output analysis of university-business-government alliances," *Triple Helix*:

*A Journal of University-Industry-Government Innovation and Entrepreneurship*, vol.3, no.1(13), 2016.

③ <査読付き学会プロシーディングス> "Commensalism: Formation of Innovation Clusters through University-Business-Government Alliances," *Academy of Management Proceedings*, 2015.

## 地域経済研究 (アジア)

苑 志佳

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は東アジアおよび中国経済を中心にこの地域経済の発展過程と発展条件、経済発展の背景と要因、経済発展の特徴や形態などについて様々な視点から研究する。講義内容が前半と後半によって構成される。講義の前半は、東アジア地域の経済発展に関わる内容であり、一般論から実証研究まで東アジア経済を徹底検証する。後半では、世界から注目を集める新興経済大国中国を中心に講義する。具体的には「改革・開放」方針の導入を境に中国経済はどのように経済大国になったかを問題意識とし、中国経済の過去・現在 および今後について分析・研究する。

### 【到達目標】

- ①東アジア経済の研究視点、方法について理解する；
- ②東アジア経済の発展に関わる諸仮説および理論をマスターする；
- ③中国経済の発展メカニズムおよび移行過程を理解することができる；
- ④中国経済の高度成長の背景・要因および特徴についてマスターすることができる。

### 【授業の進め方と方法】

本講義は教員講義を中心に出席者による討論という方式を採用する。毎回の授業は、1つのテーマを中心に教員がまず講義して論点を絞り出し、出席者全員参加の形式で討論することによって内容への理解を深める。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	授業運営に関する説明	アジア地域研究にあたって東アジア・中国経済の現状と問題提起
第2回	東アジア経済の研究視点・方法	アジア経済研究の歴史、理論
第3回	東アジア経済発展の背景・条件	戦後の東アジア経済発展の外部・内部条件
第4回	政府か、市場か	東アジア経済発展過程における政府の役割と発展戦略
第5回	東アジア工業化の担い手	[公企業・外資系企業・地場資本]の三位一体型構造の検証
第6回	外資と東アジアの経済発展	対内直接投資の役割・意義の検証
第7回	東アジア経済発展と華人・華僑の役割	東南アジア経済を中心とする検証
第8回	中国経済をどうみるか	制度移行の背景と過程
第9回	中国経済の発展モデル	漸進主義的改革の検証
第10回	中国経済におけるミクロ制度改革	企業と労働の視点から制度移行を検討する
第11回	対外開放の狙いと効果	国際分業への参加と対外貿易が果たした役割
第12回	海外資本の「引進來」(外資導入)	中国の経済発展における対内直接投資の役割
第13回	中国資本の「走出去」(海外進出)	中国企業の対外直接投資の始動
第14回	世界経済との付き合い	日中・米中経済を考える
第15回	総括	東アジアと中国経済の達成と行方

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。
- ②授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。
- ③授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。

### 【テキスト (教科書)】

少数の教科書を持って本授業の内容をカバーしきれないため、テキストを使用しない方針。その代わりに教員が用意する独自の教材を使用する。

### 【参考書】

- (1) 北原 淳・西澤信善編著 [2004] 『アジア経済論』 ミネルヴァ書房。
- (2) 星野妙子・末廣昭編 [2006] 『ファミリービジネスのトップマネジメント』 岩波書店。
- (3) 末廣昭著 [2000] 『キャッチアップ型工業化論—アジア経済の軌跡と展望』 名古屋大学出版会。
- (4) 渡辺利夫編 [1997] 『アジア経済読本』 東洋経済新報社。

- (5) 南 亮進・牧野文夫編 [2012] 『中国経済入門』 (第3版) 日本評論社。
- (6) 加藤弘之・上原一慶編 [2011] 『現代中国経済論』 ミネルヴァ書房。
- (7) 毛里和子 [1997] 『改革・開放時代の中国』 日本国際問題研究所。
- (8) 苑 志佳著 [2009] 『現代中国企業変革の担い手—多様化する企業制度とその焦点』 批評社。
- (9) 苑 志佳 [2013] 『中国企業対外直接投資のフロンティア—「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開—』 創成社。
- (10) 加藤弘之 [2016] 『中国経済入門—「曖昧な制度」はいかに機能しているか』 名古屋大学出版会

### 【成績評価の方法と基準】

#### 配分方針

- (1) 出席 (40点) : 出席状況は成績評価の最重要指標の1つ。
- (2) 平常点 (30点) : 予習状況、報告準備状況、問題提起のレベルなどを考慮する。
- (3) クラス討論への貢献点 (30点) : クラス討論への参加を強く勧める。質問の有無やコメントの質をも重視する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善にかかわるご意見、アイデアなどあれば、教室内だけでなく、メールなどを通して率直に発言してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プロジェクタ、スクリーンが必要 (教員による用意)。学生による PC、i-Pad などの持ち込みと使用 (事前にダウンロードしたファイルを表示する電子機器) を薦める。

### 【その他の重要事項】

やむを得ない事情によって欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

### 【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>世界経済論 (アジア経済、中国経済)
- <研究テーマ>中国の産業競争力の実証研究、中国対外直接投資の研究
- <主要研究業績>
  - ①『現代中国企業変革の担い手—多様化する企業制度とその焦点』(単著、批評社、2009年)
  - ②『中国社会主義市場経済の現在』(共著、御茶ノ水書房、2011年)。
  - ③『中国多国籍企業の海外経営』(共著、日本評論社、2013年)
  - ④『中国企業対外直接投資のフロンティア—「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開—』(単著、創成社、2014年)
  - ⑤『グローバル競争下の自動車産業—新興国市場における攻防と日本メーカーの戦略』(共著、日刊自動車新聞社、2014年)



【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、国境を越えて経営活動を展開する多国籍企業における人的資源管理（国際ヒューマン・リソース・マネジメント：IHRM）の諸特徴、諸課題について理論的、実証的に検討を加えることにある。理論的な議論をまず整理し、その後、アジアを中心に活動する日米欧の多国籍企業を取り上げ、その内部固有の論理を具体的な事例を踏まえながら実証的に検討する。と同時に、日本人派遣者に対する現地スタッフの評価や日本人派遣者固有の諸課題について検討し、選抜や育成について議論を展開したい。

【到達目標】

アジアにおける多国籍企業、とりわけ日本の多国籍企業の国際人的資源管理の現状と諸課題についてロジカルかつ現実的に自説を構築・展開できるようになること。

【授業の進め方と方法】

この講義の特徴は、事例と実証研究結果を多く用いる点にある。授業のテーマをより深く、確実に自分のものとするために、全員での議論を多く行う。そのためには発表者の内容や意見をよく聞くだけでなく、事前に各回の課題を調べ、自分の意見を整理しておく必要がある。講義内容の充実、ひとえに受講者の積極的な参加にかかっている。受講者の積極的かつクリエイティブな参加を期待する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	講義への導入	オリエンテーション；講義の構成と進め方、評価方法についての説明
第2回	多国籍企業のHRM（1）	多国籍企業とIHRMに関する概論
第3回	多国籍企業のHRM（2）	IHRMの理論的検討
第4回	日本の多国籍企業の概観	日本の多国籍企業の諸課題；概観
第5回	事例研究（1）	東南アジアにおける多国籍企業；事例研究（1）
第6回	事例研究（2）	東南アジアにおける多国籍企業；事例研究（2）
第7回	グローバル人材とは？	国際人材育成の検討
第8回	日本人海外派遣者とキャリア（1）	海外派遣とキャリア形成（1）
第9回	日本人海外派遣者とキャリア（2）	海外派遣とキャリア形成（2）
第10回	日本人海外派遣者とミッション（1）	海外派遣者のミッションとその達成度（1）
第11回	日本人海外派遣者とミッション（2）	海外派遣者のミッションとその達成度（2）
第12回	多国籍企業と労働市場	アジアの労働市場と多国籍企業
第13回	国際HRMの諸課題（1）	日本の多国籍企業のIHRMの今後（1）
第14回	国際HRMの諸課題（2）	日本の多国籍企業のIHRMの今後（2）
第15回	まとめ	全体のまとめと検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提示された教科書、参考書の授業のテーマの関連分野を事前に目を通しておくこと。さらには、自らの問題意識により新聞、雑誌の関連記事にも目配りし、関連事情を理解しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

1. 白木三秀著『国際人的資源管理の比較分析』有斐閣、2006年。
2. 白木三秀編著『グローバル・マネジャーの育成と評価』早稲田大学出版部、2014年

【参考書】

1. ドーリンジャー&ピオレ著（白木監訳）『内部労働市場とマンパワー分析』早稲田大学出版部、2007年。
2. 白木編著『チェンジン・チャイナの人的資源管理』白桃書房、2011年
3. 白木編著『新版 人的資源管理の基本』文眞堂、2013年。
4. 吉原・白木・新宅・浅川編著『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣、2014年。他の文献については講義中、必要に応じて適宜紹介の予定。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加度、すなわち授業中の発言・コメントの回数と内容（50%）、発表報告・レジメの回数と内容（50%）などにより総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生が、日本人か留学生か、社会人であるかそうでないかなどにより、授業での理解度や内容面での関心分野が大きく異なるため、どのように受講生の関心を引き付けていくかが極めて重要であることが分かる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

人的資源管理、社会政策

<研究テーマ>

国際人的資源管理の比較分析、海外派遣者の人的資源管理

<主要研究業績>

最近の著書

『国際人的資源管理の比較分析』（単著、有斐閣、2006年）、

『チェンジン・チャイナの人的資源管理』（編著、白桃書房、2011年）、

## 国際会計論

菊谷 正人

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①国際会計の全領域を検討します。
- ②企業活動の国際化にともなう会計問題（多国籍企業会計論）の研究
- ③会計制度の国際比較（比較会計制度論）の研究
- ④会計基準の国際的調和化（会計基準調和化論）および国際会計基準（IAS・IFRS）の研究

### 【到達目標】

多国籍企業が直面し解決しなければならない会計問題（外貨換算、国際管理会計、国際財務報告、国際課税等）に関する理論・学説及び実務・計数的手法を身に付けることができます。会計基準の国際的コンバージェンスに伴い、多国籍企業にとって基本的な重要項目である有形固定資産・棚卸資産・連結会計等に関する国際会計基準（IAS・IFRS）を日本基準と比較・分析します。

### 【授業の進め方と方法】

基本的に、国際会計の全分野を講義する予定です。たとえば、多国籍企業会計論では外貨換算会計・国際財務報告・国際管理会計・国際環境会計・国際課税、比較会計制度論では、日・英・米・仏・独等における会計制度の特質、会計基準調和化・収斂論では IASB 等の動向が網羅されます。

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	国際会計の検討課題	比較会計制度論、多国籍企業会計、会計基準国際調和化論
第 2 回	IASB・IAS の変遷の歴史と IAS・IFRS の特徴	IASB・IAS の変遷の歴史、IAS・IFRS 設定の特徴、IAS・IFRS の特徴と課題
第 3 回	外貨換算会計論の検討課題（1）	外貨建取引の会計処理、外貨建表示財務諸表の換算方法、わが国における外貨換算基準
第 4 回	外貨換算会計論の検討課題（2）	外貨建デリバティブの会計処理、インフレーションと外貨換算
第 5 回	国際財務報告の検討課題	財務報告書の国際的相違・比較、各国会計基準の相違に対する調整法
第 6 回	国際管理会計の検討課題（1）	国際管理会計の意義・範囲、国際投資計画（国際投資の種類と経済的効果、直接海外投資の意思決定の手順）、国際振替価格設定とその利用、在外企業体の業績評価
第 7 回	国際管理会計の検討課題（2）	国際財務管理（国際資金調達、国際資金運用）、為替リスク管理（為替リスクの意義・種類、為替リスク管理の意義、為替リスクに対するヘッジング方策）
第 8 回	国際管理会計の検討課題（3）	国際税務管理（国際税務計画の意義・手順、諸外国の租税優遇措置の利用、国際税制戦略と BEPS）、国際環境会計（環境監査、環境管理会計、環境財務会計）
第 9 回	国際税務会計の検討課題（1）	タックスヘイブン税制（タックスヘイブンの意義と種類、タックスヘイブンの利用形態および国際的租税回避、タックスヘイブン利用による国際的利用によつて国際的租税回避の対抗措置）
第 10 回	国際税務会計の検討課題（2）	移転価格税制（移転価格税制の意義、独立起業間価格の算定方法、移転価格による国際的租税回避の対抗措置）、過少資本対策税制
第 11 回	国際税務会計の検討課題（3）	国際二重課税の排除法（国際二重課税の発生原因、国際二重課税の排除方法、租税条約）、BEPS（税源浸食と利益移転）の概要

- 第 12 回 IASB の国際会計基準・国際財務報告基準の検討課題（1） 有形固定資産の当初認識・測定、購入による取得、自家建設による取得、交換による取得、贈与による取得、有形固定資産の再測定（原価モデルと再評価モデル）、減価償却と減損
- 第 13 回 IASB の国際会計基準・国際財務報告基準の検討課題（2） 無形固定資産、投資不動産（原価モデルと公正価値モデル）、棚卸資産（原価配分と再測定）
- 第 14 回 IASB の国際会計基準・国際財務報告基準の検討課題（3） 金融商品会計（有価証券の種類と評価基準）、企業結合会計（IAS22 と IFRS3 の特徴、のれんの会計処理、段階取得に対する会計処理）、連結会計（連結範囲の判定基準、支配獲得時における資本連結、支配獲得後における資本連結）
- 第 15 回 各国の会計制度の沿革と特質 日本・米国・英国・ドイツ・フランス・カナダ・オーストリア等における財務会計制度の特徴

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

複雑かつ多種多様な会計手法・内容を具有する国際会計基準（IAS・IFRS）の理解を深めるためには、日本の会計基準における内容とともに、数値例・仕訳例を事前に確認しておく必要があります。

### 【テキスト（教科書）】

菊谷正人『国際会計の展開と展望－多国籍企業会計の IFRS－』創成社、2016 年。  
プリント配付。

### 【参考書】

菊谷正人『国際会計の研究』創成社、1994 年。  
菊谷正人『多国籍企業会計論（三訂版）』創成社、2002 年。  
菊谷正人編著『IFRS・IAS 徹底解説』税務経理協会、平成 21 年。  
菊谷正人編著『IFRS における資産会計の総合的検討』税務経理協会、平成 24 年。

### 【成績評価の方法と基準】

討論参加・発表等 70 %、期末レポート 30 %

### 【学生の意見等からの気づき】

なるべく遅刻・無断欠席はしないで下さい。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>会計学、租税法  
<研究テーマ>国際会計基準（IAS・IFRS）、企業結合会計、連結会計、国際課税、英国租税制度  
<主要研究業績>

『英国会計基準の研究』同文館出版、昭和 63 年。  
『企業実体維持会計論－ドイツ実体維持学説およびその影響－』同文館出版、平成 3 年。

### Financial Reporting in Japan, Blackwell, 1992.

『国際会計の研究』創成社、1994 年。  
『多国籍企業会計論』創成社、1997 年。  
『国際的会計概念フレームワークの構築』同文館出版、平成 14 年。  
『税制革命』税務経理協会、平成 20 年。  
「わが国会計の『質』の点検・評価－わが国会計制度の国際化の観点から－」『会計』第 183 巻第 3 号、平成 25 年。  
「資産会計の論点－IFRS における資産会計をたたき台にして－」『経営志林』第 51 巻第 2 号、平成 26 年。  
「段階取得と追加取得の会計処理における理論的整合性に関する一考察」『産業経理』第 74 巻第 2 号、平成 26 年。  
「『パナマ文書』と国外財産調査制度の強化」『税経通信』第 71 巻第 11 号、平成 28 年。

## 国際金融論

横内 正雄

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複雑な現代の国際金融現象を読み解くための基礎的な概念と理論を理解する。

### 【到達目標】

国際金融に関する基本的な概念、理論、制度を把握し、企業が直面する国際金融上の問題に関して理解を深めることを目標とする。

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義と参加者による報告によって進める。第1回～第3回は国際金融の基礎概念、第4回～第8回は外国為替相場と国際収支等の理論、第9回と第10回は国際通貨制度の制度と歴史、第11回以降は国際金融の現状に関する講義を行う。講義では毎回資料とノートを配布しそれによって講義する。

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	外国為替相場	外国為替相場と外国為替市場に関する基本的な概念について解説する
第2回	国際収支	国際収支表の基本構造と対外資産負債残高について解説する
第3回	金利平価の理論	カバー付金利平価とカバーなし金利平価の考え方について解説する
第4回	外国為替相場の理論 (1)	外国為替相場の決定に関する古典理論（国際貸借説、為替心理説、購買力平価説）とその応用
第5回	外国為替相場の理論 (2)	アセットアプローチの考え方とそのモデル
第6回	国際収支の理論 (1)	弾力性アプローチの基本的な考え方とその応用
第7回	国際収支の理論 (2)	貯蓄投資バランスアプローチの基本的な考え方とその応用
第8回	国際金融とマクロ経済政策	マンデルフレミングモデルの基本的な考え方とその応用としての国際金融システムのトリレンマ
第9回	固定為替相場制度	固定為替相場制度の機能と歴史から固定為替相場制度のメリットとデメリットについて考える
第10回	変動為替相場制度	変動為替相場制度のメリットとデメリットについて考えるとともに、現在の様々な為替相場制度を概観する
第11回	為替リスクとその管理	為替リスク（経済的リスク、取引リスク、換算リスク）とその回避手段としてのデリバティブについて
第12回	国際通貨	国際通貨の理論と現状について考察すると共に円の国際化の問題について考える
第13回	通貨統合	最適通貨圏の理論とそれにもとづいてEU通貨統合の過程をたどる
第14回	通貨危機と金融危機	通貨危機の理論とグローバルインバランスの問題について考える
第15回	総括	講義のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ簡単な国際金融に関するテキスト（小川英治『国際金融入門』日経文庫、2002年；岩田規久男『国際金融入門』[新版]岩波新書、2009年等）を読んで講義にのぞむと理解が深まる。ケースに関する資料を事前に配布するので、割り当てられた部分に関して読んで、報告の準備をしておく必要がある。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使わず毎回講義資料を配付する

### 【参考書】

- ①小川英治・川崎健太郎『MBAのための国際金融』（有斐閣、2007年）
  - ② D.K.Eiteman, A.J.Stonehil, M.H.Moffett, *Multinational Business Finance*, 13th Edition, Pearson Education, 2012.
  - ③ M.H.Moffett, *Cases in International Finance*, Addison Wesley Longman, 2001.
- その他、最初の講義の参考文献リストを配布するとともに、各回のテーマに関する参考文献を毎回紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

出席、講義に際しての小テスト、期末レポートあるいは期末試験等に基づいて総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は未開講のため特になが、わかりやすい講義を心掛ける。

### 【担当教員の専門分野等】

国際金融、金融史

## 人材・組織マネジメント演習

小川 憲彦、奥西 好夫、佐野 哲、長岡 健、西川 真規子

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夜間修士課程2年生の修士論文指導を目的としたゼミナールであり、人材・組織マネジメントコース2年生の必修科目である。人材・組織マネジメントコースでは、修士論文として事例・データに基づく実証性の高い研究成果を求めており、実践的な含意を持ちつつ、学術的にも高水準な修士論文を数多く生み出してきた（これらの成果は、毎年発行される『成果集』に収録されている）。これまでの人材・組織マネジメントコースにおける修士論文の水準にならない、履修者が個々に研究テーマを掘り下げ、より対象にフォーカスし、オリジナルな知見が析出できるよう、個別に指導していく。

### 【到達目標】

「実践的な含意を持ちつつ、学術的にも高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とする。具体的には、①人材・組織マネジメントの観点に即して研究テーマを絞り込む、②研究テーマに関連する先行研究を探索し、批判的に読み込み、論点を整理する、③先行研究を踏まえて、自らの研究課題、仮説を具体的に設定する、④課題・仮説を検証するための調査方法を検討し、選択した方法に則って調査を実施する、⑤収集した事例・データを分析し、課題・仮説の検証を行う、⑥分析結果を論文として論理的にまとめる、ことが必要となる。

### 【授業の進め方と方法】

演習は、履修者の人数、指導教員の方針、研究テーマ等に応じて、ゼミや個別指導などのスタイルをとり、土曜や平日夜の時間帯等を利用して行う。演習では、1～3名程度の少人数教育により、個々の学習・進捗状況に合わせた柔軟な指導が実施される。このほか、4月上旬のプロポーザル発表会（1～2日）、9月の中間報告会では、人材・組織マネジメントコース全教員からの指導を受けることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会が設けられている。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画策定
第2～4回	研究計画書の作成指導	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言
第5回～	先行研究の検討	テーマに関する先行研究の調査・報告
8回		
第9～13回	調査方法の検討	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について検討
15回		
第14～	中間報告の準備	コース全体での中間報告の準備
16回		
第16～	調査の実施状況の確認	調査状況を報告
20回		
第21～	調査結果の検討	分析結果について議論
23回		
第24～	論文執筆の具体的な助言	構成や書き方の指導
28回		
第29～	論文の最終チェック	内容に関して批判・助言を行う
30回		

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的な学習活動は、履修者の進捗状況に合わせて、指導教員の指導にもとづき、個別に行う。演習では、講義形式の授業とは異なり、履修者が自主・自律的に研究を進めていくことが重要となる。各回の指導を踏まえて、次回の指導に向けて資料を収集・整理し、報告のための資料を準備した上で、疑問点や助言が必要なポイント等を整理しておくことが重要となる。

### 【テキスト（教科書）】

履修者の論文執筆進捗状況に合わせて、指導教員が個別に提示する。

### 【参考書】

履修者の論文執筆進捗状況に合わせて、指導教員が個別に提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

報告の内容、進捗状況などの平常点：50点  
修士論文の出来：50点

### 【学生の意見等からの気づき】

個別指導のためアンケート非実施である。

### 【その他の重要事項】

人材・組織マネジメントコースでは、修士課程1年時から4月のプロポーザル発表会、9月の中間発表会への参加が義務づけられている。4月のプロポーザル発表会は修士課程2年生の研究発表がメインとなるが、9月の中間発表会では、修士課程1年生にも次年度に取り組むべき研究テーマを発表し、指導を受ける機会が設けられている。

## ワークショップ (人材・組織マネジメント)

長岡 健

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人材と組織のマネジメントにおいて、「変化」は避けることのできない現象である。ビジネス環境の変化、戦略の転換、組織内に発生する硬直化などに伴い、大小さまざまな規模で、「変化への対応」が絶えず要求されている。

この授業では、実務家や研究者をゲスト講師として招き、様々なビジネス分野における事例や、実践的研究について紹介してもらう。そして、「ビジネス環境の変化にいかに対応するか」という問題意識を起点として、これらの事例/実践的研究に対する検討を進める。

今年度は、「組織変革の戦略と方法」、「ダイバーシティ推進の可能性と課題」、「人材/組織マネジメントの新潮流を探る」という3つの視点から、今日の人材/組織マネジメントが直面する諸問題に対する洞察力を磨いていくことをめざす。

### 【到達目標】

- 1) 授業で取り上げた「組織変革戦略/方法」の事例を分析し、その組織マネジメント上の可能性と課題を理解する。
- 2) 授業で取り上げた「ダイバーシティ推進」の事例を分析し、その人材マネジメント上の可能性と課題を理解する。
- 3) 授業で取り上げた事例の分析/検討を通じて、人材/組織マネジメントの今日的課題の所在を知ると共に、その背後にある社会環境の変化について理解する。

### 【授業の進め方と方法】

【ゲスト講義】【担当教員の講義】の基本的な進め方は以下の通り。

- 1) ゲスト講義 (事例の紹介) : 90分
- 2) 検討課題についてのグループ討議 : 30分
- 3) グループ討議の結果報告&全体討議 : 30分
- 4) 教員による総括 (まとめ講義) : 30分

【グループ発表】では、少人数のグループで「ゲスト講義の要約」「興味深かった点」「疑問点/問題点」を検討し、20分程度の発表を行う。加えて、クラス全体でのディスカッション、及び、担当教員による関連する理論の解説を通じて、考察を深める。

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	【担当教員の講義】 ・授業のねらいと進め方 ・ミニワークショップ
第2回	組織変革の戦略と方法 (1)	【ゲスト講義1】 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第3回	組織変革の戦略と方法 (2)	【ゲスト講義2】 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第4回	組織変革の戦略と方法 (3)	【ゲスト講義3】 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第5回	組織変革の戦略と方法 (4)	【ゲスト講義4】 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第6回	中間報告会 (1)	【グループ発表】 ゲスト講義1~4についてのグループ発表とまとめ講義
第7回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (1)	【ゲスト講義5】 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第8回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (2)	【ゲスト講義6】 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第9回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (3)	【ゲスト講義7】 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第10回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (4)	【ゲスト講義8】 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第11回	中間報告会 (2)	【グループ発表】 ゲスト講義5~8についてのグループ発表とまとめ講義

- 第12回 人材/組織マネジメントの新潮流を探る (1) 【担当教員の講義】  
「組織と学習」の新たな研究の流れに関する講義
- 第13回 人材/組織マネジメントの新潮流を探る (2) 【ゲスト講義9】  
人材マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討
- 第14回 人材/組織マネジメントの新潮流を探る (3) 【ゲスト講義10】  
組織マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討
- 第15回 ラップアップ 【担当教員の講義】  
・授業の総括  
・まとめ講義

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 授業内での検討をもとに、ゲスト講義に関する気づきをまとめ、「リフレクションシート」を個人で作成する。
- 2) ゲスト講義について、授業時間外にグループで議論を行い、「中間報告会」において、グループ発表を行う。
- 2) 全授業終了後、授業全体を振り返った上で、気づきをまとめ、「最終レポート」を個人で作成する。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しない。

### 【参考書】

講義の中で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業 (15回) への参画度 : 30%  
(評価基準) 出席頻度、議論での積極性、授業への貢献度。
- 2) リフレクションシート (10回) : 40%  
(評価基準) ゲスト講義についての理解の深さ、考察内容の深さ。
- 3) 中間報告会 (2回)・最終レポート : 30%  
(評価基準) 考察内容の妥当性/新規性/進歩性、表現の明快性。

### 【学生の意見等からの気づき】

「参加型」の授業運営を進めるよう心掛ける。

### 【学生が準備すべき機器他】

- 1) 資料配布や課題提出のために、授業支援システムを利用する。
- 2) プレゼンソフトを使って中間発表を行う。

### 【その他の重要事項】

受講者の人数、関心、理解の進捗を勘案し、受講者と相談の上で、内容や構成を修正する可能性がある。

### 【担当教員の専門分野等】

《専門領域》  
組織社会学、経営学習論、質的調査法  
《研究テーマ》  
組織と学習、組織エスノグラフィー、  
創造的なコラボレーションのデザイン  
《主要研究業績》  
『越境する対話と学び』(共著)  
『ダイアログ 対話する組織』(共著)  
『企業内人材育成入門』(共著)  
《ウェブサイト》  
<http://www.tnlab.net/>

## キャリアマネジメント論

小川 憲彦

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアに関する基本的な考え方・理論を学ぶことを目的とします。理論と受講者自身や他の受講生のキャリアを事例として照らし合わせることで、自身のキャリアの展望を考える機会を提供します。

### 【到達目標】

授業を終えた段階で学生に期待するのは以下 3 点です。

- ①キャリアに関する主要理論を知っており、それら理論間の関係、発展のあり方を理解している
- ②個別具体の事例を理論と照らし合わせて、理論の意義や限界を考えることができる
- ③受講生自身のキャリアを理論を参照しながら自立的に考えることができる

### 【授業の進め方と方法】

クラスの前半では、キャリアに関する諸理論の講義を行います。その中で適宜、課題や問題を踏まえた受講者同士の意見交換・共有の場を設ける予定です。

クラスの後半は、受講者自身のキャリアに関する事例報告とこれに基づく意見交換を行う予定です。

ただし、受講人数によって発表時間や形式は変更があります。授業内容のおおよそのスケジュールは下記の通りですが、進捗状況や参加者人数等によって順序や内容の大幅な変更もあります。

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義方針や参加ルールの説明、発表順などを決めるので参加は必須です。
2	キャリア論の性質	経営学におけるキャリア論の位置づけについて
3-4	職業の決定①	社会学的職業決定の理論
5-6	職業の決定②	心理学的職業決定の理論
7-9	キャリア発達の理論	ライフサイクル論
10	職場適応	組織社会化
11	職場の人間関係と出世	LMX、キャリア・ツリー
12-13	キャリアの移行期	キャリア・トランジション論
14	キャリア中期	キャリア・プラトー
15	まとめ（経験と挑戦）	熟達の理論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回、その場で記入する課題と、次回までに準備する課題があります。いわゆるレポートも数回予定しています。事前に指示された本や論文（英文を含む）を読んできてもらうこともあります。各自のキャリアについての発表も予定しています。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。

### 【参考書】

Greenhaus,J.H.,Callanan,G.A.,& Goldshalk,V.M.(1999). Career Management 3rd. Orlando,FL: Harcourt.

Gunz,H.&Peiperl,M.eds.(2007). Handbook of Career Studies. Thousand Oaks, California:Sage.

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。  
エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

### 【成績評価の方法と基準】

以下の配分で総合的に評価します。

講義への参加:50 点

- ・出席や発言の頻度、議論への参加度や貢献度、課題の質など
- ・担当回における報告内容や資料・準備の度合い・質、提出物や質疑応答の内容等

レポート：50 点

内容、形式、論理性、期限など

（レポート内容は講義内で指示します）

### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュールは昨年度のものであり、受講者数等によって講義内容や方法は変わることがあります。それらを理解したうえで参加して下さい。

また、科目履修生の方も資料等の配布や連絡に授業支援システムを使いますので必ず登録し、適宜チェックして下さい。その方法は大学院事務で事前に確認しておいて下さい。

### 【学生が準備すべき機器他】

自身の発表資料などは人数分の印刷を準備して臨んで下さい。

### 【その他の重要事項】

・履修者は、初回講義での説明内容を踏まえ、これに同意したとみなします（初回講義の参加の有無は加味しませんので各自でフォローして下さい）。

・経営学研究科でのキャリア論という性質上、組織という文脈を前提とした議論が多いため、組織での仕事経験がない方にはあまり適したものではありません。

それを踏まえて参加して下さい。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

経営管理論、組織行動論

<研究テーマ>

組織社会化、組織文化、人材採用等

<主要研究業績>

・Norihiro Ogawa, Osato,D. & K.Takahashi (2015) "Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach,"*Journal of Academy of Business and Economics*,Vol.15 (1), pp.101-109.

・Norihiro Ogawa, Takahashi,K. & D.Osato (2014) "The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements" *Business Studies Journal*, Vol.6, pp.81-103.

・小川憲彦 (2013) 「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房、第Ⅲ部第 6 章、169 - 196 頁。

## 労働市場論

藤本 真

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、日本の労働市場の構造と現状について、制度的なアプローチから説明していきます。ここでいう「制度」とは、政府が法律などを通じて管理しつつ、求人者と求職者そして仲介者ら市場関係者の日々の参加によって作り上げられていく労働力需給調整システムを意味します。

現実の労働市場は、単純なマーケットメカニズムによって構造化されるものではなく、その国・地域の社会・文化や政治・経済が色濃く反映され組み上げられた「制度」から数々の制約を受けつつ、長い経緯を経て形成されてきた社会システムであるからです。具体的には、職業紹介、労働者派遣、求人広告などの「制度（事業システム）」を舞台に、それらの事業マーケット担当者（公的機関の職業相談担当者や人材紹介コンサルタントなど）の目線を加えながら、その市場の構造と規模、法の規制と経緯、需給（求人者と求職者）双方の動向、情報化・国際化・高齢化の影響などについて検討していきます。

### 【到達目標】

現在、日本も含め、多くの先進諸国において労働市場は、政府の法制度によって管理されています。日本の政府はこれまで、日本の労働市場に対してどう関与してきたのか、そしてその関与によって現在のマーケットがどう動き、経済社会の変化とともに今後どこへ向かうとしているのか。授業の到達目標は、こうした労働市場に関する洞察力を向上させることにあります。

### 【授業の進め方と方法】

1. 毎回の授業は、「講義」（6時限目）と「演習」（7時限目）により進めます。
2. 「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。
3. 「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行います。

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明。
第2回	新卒労働市場と学校紹介	（トピック・キーワード） 新卒一括採用、就職協定、就活サイト、エントリーシート、学校紹介、リクルーター、第二新卒、採用スケジュール後倒し問題
第3回	労働市場の規制緩和	（トピック・キーワード） 労働ビッグバン、規制改革会議、不本意派遣、インターネット求職者情報サイト、解雇の金銭解決制度
第4回	専門職労働市場	（トピック・キーワード） 医療・介護職の労働市場、士業従事者の労働市場、研究・開発職の労働市場
第5回	ホワイトカラー労働市場の流動化	（トピック・キーワード） 人材銀行、雇用ポートフォリオ、人材紹介（有料職業紹介）、ヘッドハンティング
第6回	再就職支援ビジネスの創成	（トピック・キーワード） アウトブレースメント、雇用調整助成金、出向・転籍、産業雇用安定センター、キャリアカウンセリング
第7回	労働者派遣をめぐる制度と現状	（トピック・キーワード） 職業安定法、労働者供給、ポジティブリスト方式、登録型、常用型、26業務、自由化業務、事前面接、紹介予定派遣
第8回	請負・アウトソーシングの展開と課題	（トピック・キーワード） 構内請負労働、事務処理請負業、BPO、EMS、個人請負、告示37号、偽装請負（偽装派遣）
第9回	ハローワークの存在意義	（トピック・キーワード） 職業安定法、二割職安、ILO第88号条約、雇用保険、教育訓練給付、しごと情報ネット、求人開拓推進員
第10回	公共職業訓練制度の現状と課題	（トピック・キーワード） 職業能力開発基本法、離職者訓練、求職者支援訓練、ポリテク、委託訓練
第11回	職業能力評価のための社会的枠組みと課題	（トピック・キーワード） 職業能力開発基本法、技能検定、業務独占資格、名称独占資格、企業による資格の活用、資格取得とキャリア
第12回	非正規化の進展と格差対策	（トピック・キーワード） フリーター、七五三問題、バイト広告、パート労働法、同一労働同一賃金、限定正社員、正規登用制度、サポーターステーション

- 第13回 国際労働力移動に関わる諸制度と課題（トピック・キーワード）  
難民、移民、非移民（外国人労働者）、労働許可制、研修生、不法就労者、技能実習生、日系人出稼ぎ者、EPA
- 第14回 高齢化する労働市場（トピック・キーワード）  
団塊の世代、2007年・2013年・2025年問題、定年後の無年金期間、高齢者雇用安定法、嘱託再雇用、シルバー人材センター
- 第15回 まとめ-日本の労働市場-（トピック・キーワード）  
授業のまとめ、授業全体を通して議論されるべきことに関する討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「授業の進め方と方法」にも記しているとおり、参加者には毎回、各テーマ別労働市場の現状と課題及び個人的な問題意識について「A4一枚程度のレポート」にまとめ、各回参加者人数分のコピーを持参してもらいます。（これを参加の前提条件とします）。

このレポートは、インターネット上で収集可能な諸情報や勤務先のケーススタディをベースに現状を捉え、自らの問題関心を簡単に取りまとめるかたちで結構です。作業のイメージができなければ、【授業計画】各回にある「トピック・キーワード」を参考にインターネットで検索してまとめて下さい。それらレポートの中から担当教員が「的確な論点整理をしているもの」を3~4名選び、それぞれ内容について報告を求めつつディスカッションを行います。報告指名が増えるよう、積極的なレポート準備を期待します。

また、報告者以外の参加者にも各回必ず討議への参加（発言）を求めますので、そのための準備（考え方の整理や事例の把握など）が必要になります。

### 【テキスト（教科書）】

講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。

### 【参考書】

毎回、次の回のテーマの参考となる文献・資料等を、提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 各回提出するレポートを、出席点として評価します。（4点×出席回数：15回全参加で小計60点）
  2. 出席点に加えて、授業内での「レポートの報告」を評価します。（担当教員の指名により授業内で報告した回数×各20点）
- 「授業への全出席と積極的な討議参加（上限60点）、及び2回以上の授業内でのレポート報告（1回あたり20点を加算）」があれば100点（A+評価）に到達するイメージです。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業社会学、人的資源管理論

<研究テーマ>

- ①中小企業における人材確保と育成・能力開発。
- ②能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能。
- ③環境変化のもとでの日本企業の能力開発活動、キャリア管理。

<主要研究業績>

（書籍【共著】）

○労働政策研究・研修機構編【2012】『中小企業における人材育成・能力開発』、労働政策研究・研修機構。

○藤本真編著【2014】『日本企業における能力開発・キャリア形成—既存調査研究のサーベイと試行的分析による研究課題の検討』、労働政策研究・研修機構。

○労働政策研究・研修機構編【2014】『求職者支援制度に関する調査研究—訓練実施機関についての調査・分析—』、労働政策研究・研修機構。（論文）

○藤本真【2011】『60歳以降の勤続をめぐる実態—企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動』、日本労働研究雑誌 No.616。

○藤本真【2012】『民間教育訓練プロバイダーにおける教育訓練サービスの改善活動—サービス改善に向けた活動を規定する要因』、日本労働研究雑誌 No.619。

# 労使コミュニケーション論

呉 学殊

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における労使コミュニケーションの実態と問題点を把握して望ましいあり方を探ってその実践に向けた企業、労働組合、政府のなすべき方向性を具体的に認識する。

## 【到達目標】

企業の労使コミュニケーションの実態を把握できる思考力を得る。  
労使コミュニケーションの経営資源性の内容を把握できる。  
労使コミュニケーションを中心に企業、労働組合、国のあり方を的確に認識できる。  
社会の望ましいあり方を考える力を得る。

## 【授業の進め方と方法】

基本的に学生は講師の書いた本、論文、報告書を毎回読んで報告して議論する。講師は、論文等の執筆背景等を述べて議論を深めていく。

## 【授業計画】

### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (1)	授業の基本的な方針について述べて学生からコメントを頂き方向性を確定する。
第2回	オリエンテーション (2)	授業で取り上げる講師の本、論文、報告書について概略的にその内容を紹介する。
第3回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点 (1)	日本の内部労働市場、国際比較等から労使コミュニケーションの問題点を明らかにする。
第4回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点 (2)	労働組合の組織率、従業員過半数代表制の問題点を明らかにする。
第5回	日本の労使コミュニケーションの方向性 (1)	問題点の解決に繋がる法的な措置のあり方を探る
第6回	日本の労使コミュニケーションの方向性 (2)	諸外国の法制を紹介しながらより具体的に法的な組織の内容を考える。
第7回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化 (1)	労働組合の結成の実態、結成に伴う労使関係の変化を確認する
第8回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化 (2)	労働組合結成効果を考える
第9回	パートタイマーの組織化と異見反映システム (1)	非正規労働者問題の実態と労働組合の組織化実態
第10回	パートタイマーの組織化と異見反映システム (2)	組織化戦略の違いがどう現れてその結果はどのようなものかを学ぶ。
第11回	CSR と企業別組合の役割 (1)	CSR の内容と動向
第12回	CSR と企業別組合の役割 (2)	企業別組合が CSR におけるどのような役割を果たせるかを学ぶ。
第13回	企業グループ連結経営と人事労務管理 (1)	個別企業の事例を取り上げて、企業グループ経営の実態を把握する。
第14回	企業グループ連結経営と人事労務管理 (2)	企業グループ経営に伴う人事労務管理の変化や課題、また、労使関係の変化を学ぶ
第15回	純粋持株会社企業グループの労使関係 (1)	4つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性を把握する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週に発表する論文等を読むこと

## 【テキスト（教科書）】

呉学殊（2013）『労使関係のフロンティアー労働組合の羅針盤』（増補版）労働政策研究・研修機構、本体定価 3500 円。  
労働政策研究・研修機構（2013）『労使コミュニケーションの経営資源性と課題』労働政策研究・研修機構。

## 【参考書】

下記、講師の勤め先 HP  
<http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html>

## 【成績評価の方法と基準】

授業発表内容（30%）  
授業への貢献度：出席、積極的な発言（30%）  
レポート（自分の事例発表をベースにしたもの）（40%）

## 【学生の意見等からの気づき】

今後自分の職場における労使コミュニケーションの改善と日本の本質的な再生に向けた授業と考えて積極的に参加してほしい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 労使関係論、産業社会学  
<研究テーマ> 労使関係、CSR、労働組合の組織化、企業組織再編  
<主要研究業績> 次のサイトをご参照  
<http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html>

## 組織行動論

西川 真規子

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのようにしたら個人のモチベーションや職務満足度は高まるのか、個人の離職や欠勤行動を防ぐにはどうすればいいのか、集団のパフォーマンスはどのようにしたら高まるのか・高められるのか、あるいはパフォーマンスの低い集団にはどのような要素が関係しているのだろうか。このようなさまざまな組織のひと、あるいは人間関係に関わる問題・課題について、心理学、社会心理学、社会学等の学際的なアプローチを用いて理解を深め、解決をはかるのが組織行動論である。リーダーシップやモチベーションをはじめとする組織行動論の重要なトピックについての理解を深め、現場への応用力を高めていく。

### 【到達目標】

①実際の組織で生じるダイナミックな事象を、個人や集団としてのひとの態度・行動の集約的帰結として客観的に捉えられるようになる。②組織行動に関わる既存理論・概念を応用し、組織の現場で生じるひとに関わる問題（課題）を客観的に認知・記述し、改善・解決に導くスキルを身につける。③英文テキストを読み込むことを通じて、海外の重要文献を含め先行研究を効果的に参照する力を身につける。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、以下3つの活動によって構成される：①教科書や論文の読解を通じて、組織行動に関する基礎理論や応用を学ぶ。②受講者自らの組織的体験、他の受講生の体験の共有をはかり、これらに対する質疑・応答を通じて、現場での体験を組織行動の視点から客観的に振り返る。③各受講者が自らの組織で生じている課題・問題を理論・概念を応用しつつ具体的に診断し、多面的な処方レポートをまとめてみる。

本授業は講義形式ではなくセミナー方式を採用するため、①、②、③いずれにおいても受講者の積極的参加が期待される。教科書や取り上げる論文は英文であるが、授業は日本語で行う。各トピックの内容や配分については受講生の人数、問題意識等により柔軟に対応していく。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	組織行動論とは コース目標の共有 担当の割り当て 次回課題の提示
2	リーダーシップ 1	課題の共有 リーダーシップについて解説 課題の議論
3	リーダーシップ 2	リーダーシップの主要論文を取り上げ読解 次回課題の提示
4	モチベーション 1	課題の共有 モチベーションについて解説 課題の議論
5	モチベーション 2	モチベーションの主要論文を取り上げ読解
6	中間発表会	これまでの学習を踏まえ、自らの組織課題を分析、改善策の発表 次回課題の提示
7	チームと集団における個人 1	課題の共有 チーム、集団について解説 課題の議論
8	チームと集団における個人 2	チーム、集団に関する主要論文を取り上げ読解 次回課題の提示
9	職場環境の影響 1	課題の共有 職場環境の影響について解説 課題の議論
10	職場環境の影響 2	職場環境の影響に関わる主要論文を取り上げ読解 次回課題の提示
11	パワーと影響力 1	課題の共有 パワーと影響力の解説 課題の議論
12	パワーと影響力 2	パワーと影響力に関する主要論文を取り上げ読解 次回課題の提示

13	組織の変革 1	課題の共有 組織の変革について解説 課題の議論
14	組織の変革 2	組織の変革に関する主要論文を取り上げ読解
15	レポート発表会 授業のまとめ	レポートの発表 授業のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提示された課題について事前に資料を準備する。  
論文については発表担当者を指定するので、担当者は資料を事前に準備する。

各回の学習内容を生かし、自らの組織での課題の改善策を適宜修正する。次回教科書の該当箇所を各自で予習し、わからない点や討議したい事項を事前に準備することが望ましい。

### 【テキスト（教科書）】

*Classic Readings in Organizational Behavior, 4th edition* by J. Stenven Ott, Sandra J. Parkes & Richard B. Simpson, Wadworth, 2008

洋書であるため早い目に準備を整えること。また本テキストには旧版が多数存在するので、**4th edition** である旨注意すること。  
(ISBN-10: 0495-09474-9 ISBN-13: 978-0-495-09474-6)

### 【参考書】

(以下は参考書であり購入の必要はない)

『社会心理学キーワード』、山岸俊男編、有斐閣双書、2001年

*Essentials of Organizational Behavior 13th edition* by Stephen P. Robbins & Timothy A. Judge, Pearson, 2014

### 【成績評価の方法と基準】

担当箇所の準備・発表・討議への参加（授業への貢献） 50点

レポート 50点（レポートは、組織で生じる事象を客観的に捉えられているか、理論・概念を正確に理解・応用しメカニズムの解明がなされているか、メカニズムの解明に沿って実践可能な解決策が提示されているか、にて評価。）

### 【学生の意見等からの気づき】

専門知識の理解にとどまらず応用力が身につくという本授業のメリットをさらに強化していく。進行速度が速いと指摘を受け、受講生の習熟度に合わせより丁寧な講義を心がける。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に授業支援システムを利用するので受講者は授業開始後速やかに授業支援システムへ登録のこと。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 組織行動論、経済社会学

<研究テーマ> ジェンダーと労働、労働と生活の質、職務態度

<主要研究業績>

①「市場労働とケア労働の関係性—行動、認知、心理レベルでの考察」『経営志林』2016年 第53巻 2号

②「よりよい働き方とは：雇用の質への試験的アプローチ」『日本労働研究雑誌』2013年 No.632

③“(Re)defining Care Workers as Knowledge Workers”, *Gender, Work and Organization*, Vol.18 No.1 January 2011

④『ケアワークを支える力をどう育むか：スキル習得の仕組みとワークライフバランス』日本経済新聞出版社 2008年

⑤「感情労働とその評価」『大原社会問題研究所雑誌』2006年 No.567



## マーケティング演習 (春学期)

竹内 淑恵、新倉 貴士、西川 英彦、長谷川 翔平

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

### 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

### 【授業の進め方と方法】

マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	同上
3	先行研究の検討①	先行研究についての指導
4	先行研究の検討②	同上
5	先行研究の検討③	同上
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	同上
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査状況に基づき指導
11	調査実施状況の確認②	同上
12	調査実施状況の確認③	同上
13	調査実施状況の確認④	同上
14	調査実施状況の確認⑤	同上
15	調査実施状況の確認①	同上

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

### 【テキスト (教科書)】

適宜紹介する。

### 【参考書】

指導教官からの指示に従うこと。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

## マーケティング演習 (秋学期)

竹内 淑恵、新倉 貴士、西川 英彦、長谷川 翔平

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

### 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

### 【授業の進め方と方法】

マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査状況に基づき指導
3	調査実施状況の確認②	同上
4	調査実施状況の確認③	同上
5	調査実施状況の確認④	同上
6	調査実施状況の確認⑤	同上
7	調査実施状況の確認⑥	同上
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	執筆状況に基づき指導
11	論文執筆指導②	同上
12	論文執筆指導③	同上
13	論文執筆指導④	同上
14	論文執筆指導⑤	同上
15	論文執筆指導⑥	同上

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

### 【テキスト (教科書)】

適宜紹介する。

### 【参考書】

指導教官からの指示に従うこと。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

## ワークショップ(マーケティング)

小林 健一

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

#### 「マーケティングと IT」

IT の進化により、マーケティング領域においても、意思決定に資する情報量の増加、情報の種類の拡大、分析加工技術の高度化が日々進行しています。

例えば、購買実態を把握する、ターゲットのプロフィールを明確化する、というマーケティングの基本動作も、かつてない種類と量の情報がかかってないスピードで分析することが可能になりました。

マーケティングとシステム、マーケティングと IT の融合は、今後ますます進化しながら、マーケティングそのものを変えていくものと思われれます。

本ワークショップでは、これらの情報環境の変化や技術の進化によって、**伝統的なマーケティング(特にマーケティング戦略立案等マーケティング意思決定プロセスの上流行程)の何が変わり、何が変わらないのか、また、これからのマーケットに求められる知識・能力・スキルとは何なのかを、現場最前線の方々から最新の情報をご紹介いただくことにより、明らかにしたい**と思います。

### 【到達目標】

- ①マーケティングにおける IT 活用の現状と可能性を説明できる。
- ②マーケティングにおける IT 活用の実例をあげることができる。
- ③これからのマーケットに求められる知識・能力・スキルについて自分なりの考え方を説明できる。

### 【授業の進め方と方法】

- さまざまな領域でマーケティングにおける IT 活用を実践している現場の方々(ゲスト講師)からお話をうかがいます。
- ゲスト講師の講義(約2時間)の後、可能な限り質疑応答/ディスカッションの時間を設けます。
- 授業からの学びを確認記録するため、自身の気づきを A4 サイズ 1 枚のレポートにまとめていただきます。(授業終了後1週間以内に提出)
- 以下の授業計画は **2016 年度の実績に基づくものです。2017 年度**のゲストは、昨年度のゲストも含めて、今後の交渉によって決定します。そのため、**授業計画とスケジュールが変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。**

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の問題意識説明 ゲスト講師紹介 受講生の自己紹介等
第2回	ゲスト講師① 岡野雅一氏 株式会社 インテージ	「IT とマーケティング、その関係性を俯瞰する。」
第3回	ゲスト講師② 徳久真也氏 株式会社博報堂 生活者データマネジメントプラットフォーム局	「マーケティングにおけるビッグデータの可能性」
第4回	ゲスト講師③ 奥律哉氏 (株)電通 電通総研 メディアイノベーションラボ 統括責任者	「メディア環境分析～変わりゆく生活者の情報行動」
第5回	ゲスト講師④ 岡田佳也氏 (株)構造計画研究所 社会デザイン・マーケティング部	「シミュレーションを活用した戦略立案」
第6回	ゲスト講師⑤ 草野隆史氏 (株)ブレインパッド 代表取締役会長	「データ分析とマーケティング」

第7回	ゲスト講師⑥ 鈴木一彦氏 (株)クリエイティブ・ブレインズ 代表取締役	「マーケティングリサーチの新しい潮流」
第8回	ゲスト講師⑦ 長谷川翔平氏 法政大学 専任講師	「バイズ統計とそのマーケティングへの活用」
第9回	ゲスト講師⑧ 眞鍋亮平氏 株式会社電通 デジタル・クリエイティブ5部 部長	「オンライン動画プランニングの潮流」
第10回	ゲスト講師⑨ 清水俊明氏 (株)スタートトゥデイ 取締役 ホスピタリティ・マーケティング本部長	「ZOZOTOWN のマーケティング戦略」
第11回	ゲスト講師⑩ 武田浩一氏 日本アイビーエム(株) 東京基礎研究所 技術理事	「質問応答システム Watson とコグニティブ・コンピューティングの展望」
第12回	ゲスト講師⑪ 高見耕平氏 株式会社イキューブ 執行役員 社長室室長	「ドローンビジネスの可能性」
第13回	ゲスト講師⑫ 山形知大氏 株式会社 FIND 代表取締役	「マーケティングの過去・現在・未来」
第14回	ディスカッション	グループディスカッション
第15回	プレゼンテーション	グループプレゼンテーションと総括

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 次回テーマに関する事前情報収集。

### 【テキスト(教科書)】

特に使用しません。講師及びゲスト講師が用意したスライド等の素材は、可能な限り授業支援システムで共有します。

### 【参考書】

特に使用しません。

### 【成績評価の方法と基準】

出席はとりませんが、レポート提出 10 回以上を前提として、レポート 70 %、授業における積極的な関与 30 %、の比率で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

●ゲスト講師とのディスカッションの時間をもう少し長くにとって欲しい、との声があるため、できる限りディスカッションに時間を使いたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報共有/整理のため、できる限り PC を持参してください。

### 【その他の重要事項】

この領域の今後の可能性に関する積極的な提言や、可能性を探るための議論への積極的な関与を期待します。

### 【担当教員の専門分野等】

小林健一

(株)電通 IMC プランニングセンター長を経て

(株)電通マーケティングインサイト代表取締役社長(～2013年)

2014年～法政大学経営学部教授

〈専門領域〉 広告論 マーケティング論

〈研究テーマ〉 コーポレートブランド 企業広告史 CRM

〈主要研究業績〉

「なぜ今、「IMC ver.2.0」なのか」ADVERTISING 2005年

「企業広告考～企業・社会・個人の関係から」日経広告手帖 2004年

「金融ビッグバンで変わる顧客の意識」月刊金融ジャーナル 1999年

## マーケティング論

竹内 淑恵

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・マーケティング戦略に関する基本的な概念、理論、分析手法などの知識を修得する。  
・基礎的な理論を修得するとともに、実践的かつ批判的な視点から討議する力を養う。

### 【到達目標】

・マーケティングの基本概念や理論について自ら説明できるレベルに達する。  
・実務の事例に応用し、批判的な視点から検討できるようになる。

### 【授業の進め方と方法】

・2 時限続きで 15 回開講します。  
・テキストの第 1 章～第 15 章はレクチャー形式で行います。  
・受講生には各章末にある「ディスカッション」を担当していただきます。予めプレゼンテーションファイルとハンドアウトを用意し、討議のためのケースを紹介してください。その後、クラス全員で発表内容などについて検討します。  
・時間外に、革新的なマーケティング事例に関するグループワークをしていただきます。その内容を第 15 回の授業でプレゼンテーションしてください。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	・イントロダクション、オリエンテーション ・第 1 部：マーケティングの本質と市場競争	・テキスト概要、授業の進め方、自己紹介、分担決定など。 ・第 1 章：マーケティングの本質
2	第 1 部：マーケティングの本質と市場競争	・第 2 章：企業とマーケティング戦略 ・第 3 章：競争優位の創造
3	第 2 部：顧客価値の発見と理解	・第 4 章：マーケティングの基本枠組み ・ディスカッション
4	第 2 部：顧客価値の発見と理解	・第 5 章：マーケティング情報とカスタマー・インサイト ・ディスカッション
5	第 2 部：顧客価値の発見と理解	・第 6 章：消費者の購買行動 ・ディスカッション
6	第 3 部：顧客価値の創造と提供	・第 7 章：製品、サービス、ブランド ・ディスカッション
7	第 3 部：顧客価値の創造と提供	・第 8 章：新製品開発と製品ライフサイクル戦略 ・ディスカッション
8	第 3 部：顧客価値の創造と提供	・第 9 章：マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供 ・ディスカッション
9	第 4 部：顧客価値の説得と伝達	・第 10 章：価格設定 ・ディスカッション
10	第 4 部：顧客価値の説得と伝達	・第 11 章：コミュニケーションによる顧客価値の説得 ・ディスカッション
11	第 4 部：顧客価値の説得と伝達	・第 12 章：広告とパブリック・リレーションズ ・ディスカッション
12	第 4 部：顧客価値の説得と伝達	・第 13 章：人的販売と販売促進 ・ディスカッション
13	第 5 部：マーケティングの革新	・第 14 章：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング ・ディスカッション
14	・第 5 部：マーケティングの革新 ・研究手法と修論について	・第 15 章：マーケティングと社会的責任 ・OBOG から研究の進め方と修論への取組みの具体を学ぶ。
15	グループワーク発表会	グループごとに課題について報告する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・事前にテキストを読んで内容を理解しておいてください。

・担当する回にはパワーポイントやハンドアウトを作成し、発表してください。  
・革新的なマーケティング事例を選定し、グループワークを行ってください。

### 【テキスト (教科書)】

フィリップ・コトラー, ゲイリー・アームストロング, 恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版, 2014/3/4. ISBN-10: 4621066226 ISBN-13: 978-4621066225 ¥5,184

### 【参考書】

・授業では原著を使用しません。最新事例などは以下の書籍を参考にしてください。

Kotler, Philip & Gary Armstrong, Principles of Marketing, Global ed 版, Pearson Education, 2015/4/2. ISBN-10:1292092483, ISBN-13:978-1292092485 ¥11,653 など

・マーケティングコースの修了生 (OBOG) が執筆した以下の書籍を修士論文 (研究) の参考にしてください。

竹内淑恵編著 (2014) 『リレーションシップのマネジメント』文真堂, 2014/4/8. ISBN-10: 4830947977 ISBN-13: 978-4830947971 ¥2,808

### 【成績評価の方法と基準】

・担当する各章のプレゼンテーションの内容 (50%)  
・クラス討議への参加度、貢献度 (20%)  
・グループワークによる事例発表 (30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

以下は受講した学生からの意見です。こうした意見を反映して授業を進めていきます。

・翻訳文をテキストとし、英語の原著は参考書とした方がよい。  
・ゲストスピーカーとして OBOG を招いた講義において、研究手法について説明してほしい。  
・毎回の討議で実務との関連が明確になった。

### 【学生が準備すべき機器他】

・担当回にはプレゼンテーションファイル (PowerPoint) を USB メモリで持参してください。  
・質問などはメールにて連絡してください。アドレスは 1 回目の授業でお伝えします。

### 【その他の重要事項】

・授業開始後、受講生同士で連絡ができるようメーリングリストを作成してください。  
・マーケティングコースの学生は、マーケティング・リサーチ、消費者行動論、製品開発論、ワークショップ (マーケティング) (以上 2017 年度開講科目) を履修することをお勧めします。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マーケティング論、ブランド論、消費者行動論

<研究テーマ>

広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、ソーシャルメディアにおけるコミュニケーション

<主要研究業績>

①竹内淑恵 (2016) 「Facebook ページにおける共感の発生要因とコミュニケーション効果」『イノベーション・マネジメント』No.13, pp.1-26.

②竹内淑恵 (2015) 「Facebook ページへの共感発生と企業イメージへの影響」『イノベーション・マネジメント』Vol.12, pp.17-39.

③竹内淑恵編著 (2014) 『リレーションシップのマネジメント』文真堂。

④ Nishio, C., M.Ishida and T.Takeuchi (2014), "The impact of natural disasters on the values and lifestyles of consumers: in the case of the Tohoku Earthquake," Journal of Global Scholars of Marketing Science, Vol.24, No.2, pp.172-188.

⑤竹内淑恵 (2013) 「No.1 表示による広告効果」『イノベーション・マネジメント』Vol.10, pp.1-28.

⑥竹内淑恵 (2010) 「広告コミュニケーション効果-ホリスティック・アプローチによる実証分析-」千倉書房。

## 消費者行動論

新倉 貴士

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者行動に関する体系的な知識の獲得ができるように講義をします。マーケティング戦略の策定と実施には、消費者に関する知識が不可欠となります。講義では、消費者の認知・態度・行動とマーケティング戦略との対応づけを意識しながら、また修士論文の作成に向けて必要となる基礎的な知識を組み込み構成します。履修生は、消費者行動に関する基礎的な知識の獲得と、実践的なマーケティング戦略を意識した消費者知識の獲得を目指してください。

### 【到達目標】

消費者の認知側面と感情的な態度側面を意識し、実際の行動側面との関係を考えながら、理想的なマーケティング戦略の構築と実践を描けるよう努力して下さい。そのために履修者は、①消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるよう、②消費者行動に関する概念や理論を理解することができるよう、③消費者行動とマーケティング戦略との関係が理解できるよう、努力してください。

### 【授業の進め方と方法】

本講義では、マーケティングの基礎となる消費者の理解を目的とするために、消費者に関する体系的な知識と2016年までの歴史的な展開を講義します。また、ケースディスカッションにより、実践的な消費者知識を体得します。さらに、修士論文の作成に向けて、消費者研究の論文について講読し考察します。消費者行動論では、単に消費者の顕示的な行動を捉えるだけでなく、潜在的な認知や態度を理解することによって、それらの連鎖的な関係を捉えていきます。これによって、消費者行動の規定要因とマーケティング戦略との関係を考察することができます。第1回～第2回は、授業ガイダンスと本講義の体系を概説します。第3回～第4回は、消費者行動論の歴史的な展開を紹介し、第5回～第9回は、消費者情報処理モデルに基づく消費者の認知的な情報処理プロセスを説明します。第10回～第11回は、ケースディスカッションを行いながら、消費者の情報処理とブランドマーケティングを理解します。第12回～第14回は、論文を講読します。第15回は、授業の総括と最終試験を行います。毎回、資料やケースを配布する予定です。

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義の進め方や学習の方法に関する説明をします。
第2回	消費者行動とマーケティング	マーケティングにおける消費者行動論の位置づけを説明します。
第3回	消費者行動研究の歴史	消費者行動研究の歴史的な展開を説明します。
第4回	消費者行動のモデル	消費者行動に関する様々なモデルを説明します。
第5回	消費者情報処理モデル	現在の消費者行動論の主流である情報処理モデルを詳解します。
第6回	情報の探索	消費者の情報探索とその要因について説明します。
第7回	情報の解釈	消費者の情報解釈とその要因について説明します。
第8回	情報の評価	消費者の情報評価とその要因について説明します。
第9回	情報処理の規定要因	特に内的な規定要因となる「動機づけ」と「能力」について説明します。
第10回	消費者とブランド	消費者とブランドとの関係について説明します。
第11回	ケース討議1	ケースを通じて消費者行動とマーケティングを理解します。
第12回	ケース討議2	ケースを通じて消費者行動とマーケティングを理解します。
第13回	論文講読1	消費者行動とマーケティングに関する論文を講読することによって、修士論文に備えます。
第14回	論文講読2	消費者行動とマーケティングに関する論文を講読することによって、修士論文に備えます。
第15回	授業総括&最終試験	授業の総括と最終試験を行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に配布する文献リストに基づき、第10回までは、事前に該当する書籍を熟読して授業に臨んで下さい。第11回からのケース討議と論文講読では、事前に配布する資料を熟読して、自分なりに整理をして授業でのディスカッションに備えて下さい。

### 【テキスト（教科書）】

『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘他、有斐閣アルマ、2012年）

### 【参考書】

『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士、千倉書房、2005年）

『消費者行動の知識』（青木幸弘、日経文庫、2010年）

『消費者行動論』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012年）

### 【成績評価の方法と基準】

ケース討議への貢献（30%）

ケース討議・論文講読への貢献は、発言回数とその内容で判断します。最終試験（70%）

最終試験では、講義とケースに関する理解度を確認します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進行速度に気をつけながら進めます。

### 【その他の重要事項】

マーケティング論、マーケティング・リサーチ論を履修しておくことが望ましい。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

消費者行動論、マーケティング

<研究テーマ>

消費者情報処理の視点に基づく認知・態度・行動の関係

<主要研究業績>

『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（単著、千倉書房、2005年）、

『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（共著、有斐閣アルマ、2012年）

## マーケティング・リサーチ論

西川 英彦

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、マーケティングリサーチの知識は、実務や研究において必須ともいえるだろう。

本授業では、マーケティング・リサーチをはじめ学ぶ大学院生が理解しやすいように、定性調査と定量調査を学んだ上で、実際にインタビューなどの定性調査をもとに仮説を設定し、アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査をもとにその仮説を検証することを通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を体系的・実践的に学ぶ。

### 【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

①インタビューなどの定性調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。

②アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。

③複数の定量調査を用いて、仮説を検証することができる。

### 【授業の進め方と方法】

本講義は、マーケティング・リサーチの方法論を理解した上で、インタビューによる定性調査を通して仮説を設定し、質問票調査によりデータ収集を実施し、Rによる定量調査を通して、仮説検証を行うものである。

課題レポート例をもとに詳しく説明することや、中間報告によりステップをもうけて段階的に課題を確認しつつ作成していくので、はじめてリサーチを実施する方でも大丈夫である。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	マーケティング・リサーチとは	<b>全体像の理解</b> ①リサーチ・プロセス ②課題定義 ③リサーチデザイン
2	データと収集方法を学ぼう！	<b>講義</b> ①データと収集方法 ②最終課題レポートの説明 ③輪読の分担
3	データの特徴や関係を見よう！	<b>講義と演習</b> ①平均と標準偏差 ②無相関検定
4	データの関係をみよう！	<b>講義と演習</b> ① $\chi^2$ 検定 ② $t$ 検定
5	データのまとめと、因果関係を見よう！	<b>講義と演習</b> ①因子分析 ②帰帰分析
6	データの関係をみよう！	<b>講義と演習</b> ①一元配置の分散分析 ②二元配置の分散分析 ③次週の課題の説明
7	ステップ① 課題テーマを報告しよう！	<b>課題テーマの報告</b> 各自による、調査課題のテーマの中間報告
8	定性調査を学ぼう！	<b>テキスト輪読</b> ①第1章：イントロダクション&第2章：はじめてみよう ②第3章：深層インタビュー ③第4章：エスノグラフィーと観察法
9	定性調査を学ぼう！	<b>テキスト輪読</b> ④第5章：オンライン上の観察とネットノグラフィー ⑤第6章：データ収集のための道具 ⑥第7章：学術調査のためのデータ分析・解釈・理論構築のアプローチ
10	定性調査を学ぼう！	<b>テキスト輪読</b> ⑦第8章：実務家のためのデータ分析・理論・プレゼンテーション ⑧第9章：プレゼンテーション・公開・共有&第10章：最後に

11	ステップ② 定性調査と仮説を報告しよう！	<b>仮説の報告</b> 各自による、課題テーマにもとづいた定性調査と2次データ調査の結果、仮説の中間報告
12	ステップ③ アンケートを報告しよう！	<b>アンケートの報告</b> 各自による、仮説にもとづいた質問票調査の中間報告
13	マーケティング・リサーチの実際	<b>ゲストスピーカーによる、実際のケースの講演</b> ニールセン（元 P&G リサーチ部門）の東浦氏を予定
14	最終課題報告	<b>最終課題報告</b> 各自による、中間課題をもとにした、最終課題報告 参加者による質疑応答・教員による指導
15	最終課題報告の修正	<b>最終課題の修正報告</b> 指摘を受けた事項を修正の上、報告する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ収集および、最終レポートの作成を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

ラッセル・ベルク/アイリーン・フィッシャー/ロバート・V・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎,2016年。

### 【参考書】

①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社,2008年。

②ナレシュ・K. マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：理論編』同友館,2006年。

③ナレシュ・K. マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：技術編』同友館,2007年。

### 【成績評価の方法と基準】

ステップ中間報告・輪読報告（4回×10点=40点）  
講義や演習での発言・議論参加（30点）  
最終課題報告・レポート（30点）

評価対象は講義回数3分の2以上の出席が最低条件である。なお、遅刻は2回で1回の欠席扱いとなる。

### 【学生の意見等からの気づき】

理解に差があることから、グループワークでの中間報告を実施する。課題レポート例をもとにした、イメージしやすい課題の説明

### 【学生が準備すべき機器他】

各自、ノートパソコンを持参すること。なお、統計ソフトは、フリー・ソフトである R を使用するので、テキストを参考に、事前にパソコンにインストールしておくこと。

### 【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタルマーケティング

<研究テーマ>

ユーザー・イノベーションがもたらす市場効果

<主要研究業績>

著書に、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『1からの商品企画』（編著、碩学舎）、『1からの消費者行動』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。論文に、“The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,”（共著、*Journal of Marketing Research*, In-Press）、“User-Generated Versus Designer-Generated Products: A Performance Assessment at Muji,”（共著、*International Journal of Research in Marketing*, 30(2)）など。

## 製品開発論

田路 則子

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハイテク産業における製品開発のケース・スタディを通じて、戦略的意思決定とビジネスモデル構築の能力を磨く。

### 【到達目標】

具体的な目標は次のとおりである。

- ①イノベーション概念の理解
- ②イノベーションに成功するマネジメントの考察
- ③ビジネスプラットフォーム構築の理解
- ④産業別の製品開発プロセスの理解

### 【授業の進め方と方法】

ケース・スタディでは、事業ドメインの設定、研究開発や製品企画、顧客獲得、上市、事業拡大というビジネスの流れを追いながら、どのように競合と差別化して顧客ターゲットを設定し、内部の組織編成や外部との連携（サプライヤーやディストリビューター）を行ったかを明らかにする。

ハイテク産業では、技術よりもむしろ、戦略およびマーケティングが競争優位性を決定していることがケース・スタディによって確認できるだろう。

ケースは、カメラ、時計のような古典的な事例と、スマートフォン、空調機、医療機器等の今日的な事例まで、時代と業界を横断して用意している。製品や業界の理解を深めるために、視覚教材を極力使用する。

事前にケースを配布するので、質問に対する自分なりの考察を用意してメモを作成しておく。講義では、詳しい事例の説明とVTRによって理解を深めてから、グループで議論を行ってまとめを発表する。さらに、全員で議論を深めてから、最後に講師が総括する。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	ラディカル・イノベーションと破壊的イノベーション	Kodak(カメラ)
2	コモデティ化	セイコー、SWATCH(時計)
3	非コモデティ化(ブランドの構築)	カシオ(時計)
4	技術蓄積	日本開閉器工業(スイッチ)
5	事業ドメインの設定	テルモ(医療機器)
6	ユーザー・イノベーションと製品アーキテクチャー1	東京エレクトロンデバイス(半導体商社)他
7	プラットフォーム・リーダーシップ	Apple Intel 他 ゲスト講演
8	製品アーキテクチャー2	パナソニック(DVDプレイヤー)、ASML/ニコン(露光機)
9	事業ドメインの設定2	シャープ(液晶)、ソニー(撮像素子)
10	グローバル化-電子産業	ダイキン工業(空調機)
11	グローバル化-素材産業	積水化学工業(フロントガラス用中間膜)
12	オープン・イノベーションとスタートアップ	Tercica/Tacere(創薬)
13	ハイテク・スタートアップ1	レイテックス・Techwell(半導体検査装置、チップ)
14	ハイテク・スタートアップ2	アンジェスMG(創薬)
15	まとめ	

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にケースを読み、課題を期限までに提出する。

### 【テキスト（教科書）】

『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年

### 【参考書】

- ①『MOT“技術経営”入門』延岡健太郎, 日経新聞社, 2006年
- ②『オープン&クローズ戦略』小川紘一, 翔泳社, 2014年
- ③『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005年

### 【成績評価の方法と基準】

出席率、議論への参加、毎回の小課題を3分の1ずつで評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

概念の理解の時間、グループ討議の時間、概念を使った事例の掘り下げの時間のメリハリをつける。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布及び課題提出

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>経営戦略、技術経営

<研究テーマ>

「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」

「ハイテク・スタートアップの成長」

「ハイテク産業集積のエコシステム」

<主要研究業績>

- ①「半導体露光レーザーメーカーの製品アーキテクチャークローズなモジュラーがもたらす競争優位性—」田路則子・佐藤政之・榎波龍雄『イノベーション・マネジメント』法政大学 2017年
- ②「ITビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30巻, pp.312-325, 2016年
- ③“Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014
- ④「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房, pp.133 ~ 159, 2013年.
- ⑤「日米のWEBビジネスの起業家活動—首都圏及びシリコンバレーの定量調査分析」田路則子・新谷優『イノベーション・マネジメント』法政大学, No.11, pp.105-121, 2014年
- ⑥「WEBビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774. 2011年
- ⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年
- ⑧「半導体産社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8巻, 5号, pp.211-231, 2009年
- ⑨『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005年

## アカウンティング・ファイナンス演習 (春学期)

菊谷 正人

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

### 【到達目標】

修士論文の作成者の問題意識を明確にする。関連した学術論文を読みこみ、理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につける。よって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

### 【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1 回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2 回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3 回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4 回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞る。さらに、データの入手可能性を検討する。
5 回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行ってもらう。
6 回目	先行研究のレビュー②	引き続き先行研究のレビューを行ってもらう。また、その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7 回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかという点について議論する。
8 回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9 回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10 回目	仮説の設定②	設定すべき仮説についての検討を続ける。
11 回目	研究方法論について①	各種の研究手法について全般的な説明を行う。
12 回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13 回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成①	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行う。

14 回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成②	データの入手方法、質問票の作成、ケース研究の方法等の検討を続ける。
15 回目	中間報告	研究仮説のほか、予備的なデータに基づいた結果の報告を行い、それらについて議論する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。

- 1～2 回目 各自の問題意識に基づいて、参考となりそうな学術論文をできるだけ読んでおくこと。
- 3～4 回目 自分の実務経験、またこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにしておくこと。
- 5～6 回目 各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行っておくこと。
- 7～8 回目 先行研究のレビューに基づいて、これまで何が明らかにされたか。何が残された問題であるかを明確にしておくこと。
- 9～10 回目 先行研究のレビューに基づき、これまでの研究で何がどこまで明らかにされているのか、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにすることができるのかを明確にしておくこと。
- 11～12 回目 これまでの文献で使用されていた研究方法について検討すること。
- 13～14 回目 必要なデータを収集するためのソース、あるいは、質問票調査を行う場合は質問項目などを考えておく。
- 15 回目 先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、簡単なレジメを作成すること。その際、仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築できるようにしてください。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。各自の問題意識に基づき基本的な文献を紹介します。

### 【参考書】

各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。ただし、会計学の場合、次の3誌がトップジャーナルとされていますので、会計学領域で修士論文を書く場合は、これらの最新のものに目を通すべきです。

Journal of Accounting Review

Journal of Accounting Economics

The Accounting Review

また、ファイナンスの場合、次の3誌がトップジャーナルとされていますので、ファイナンス領域で修士論文を書く場合は、これらの最新のものに目を通すべきです。

Journal of Finance

Journal of Financial Economics

Review of Financial Studies

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、議論への貢献 30%および報告の内容 50%で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

## アカウンティング・ファイナンス演習 (秋学期)

菊谷 正人

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎として、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

### 【到達目標】

修士論文の作成者の問題意識を明確にする。関連した学術論文を読みこみ、理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につける。よって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることが目標とします。

### 【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
1 回目	中間報告の follow-up	春学期に行った中間報告で要請された作業についてその結果を報告し、議論する。
2 回目	データの分析方法①	仮説の検定方法について説明する。
3 回目	データの分析方法②	引き続き、仮説の検定方法について説明する。
4 回目	データの分析①	各自が収集したデータを使い、その分析結果の検討を行なう。
5 回目	データの分析②	引き続き、データの分析結果を検討する。
6 回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
7 回目	データ分析の結果の解釈②	引き続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
8 回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9 回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
10 回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11 回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
12 回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
13 回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
14 回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。
15 回目	論文の修正および完成原稿の作成②	引き続き、提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。

- 1 回目 春学期に行った中間報告で要請された作業を行う。
- 2～3 回目 各自の研究に適切と思われる分析方法を学習すること。
- 4～5 回目 各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
- 6～7 回目 分析結果について解釈を行なう。
- 8～9 回目 修士論文の章立てを構成し、大雑把なドラフトを作成する。
- 10～11 回目 教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
- 12～13 回目 教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正する。

14～15 回目 教員からのコメントに基づいて修士論文の最終版を作成する。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

### 【参考書】

各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。ただし、会計学の場合、次の3誌がトップジャーナルとされていますので、会計学領域で修士論文を書く場合は、これらの最新のものに目を通すべきです。

Journal of Accounting Review

Journal of Accounting Economics

The Accounting Review

また、ファイナンスの場合、次の3誌がトップジャーナルとされていますので、ファイナンス領域で修士論文を書く場合は、これらの最新のものに目を通すべきです。

Journal of Finance

Journal of Financial Economics

Review of Financial Studies

### 【成績評価の方法と基準】

演習への出席の状況 20%、議論への貢献 30%および報告の内容 50%で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。



## 管理会計論

平井 裕久

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、企業経営において必要な種々の会計情報（財務情報・非財務情報）を、経営者および経営管理者にとって有用である情報として提供するシステムです。すなわち、経営管理における意思決定や業績評価に重要な情報を提供するものです。本授業では、経営者の視点から管理会計や原価計算の基礎知識とその応用について理解することを目的とします。

### 【到達目標】

管理会計および原価計算にかかわる基礎理論を理解する。また管理会計に関する経営上の今日的課題について、事例も踏まえ考察することで、その知識を実務の場面でも活かせることを目指します。

### 【授業の進め方と方法】

前半では講義形式、後半では輪読形式を中心に進める。理解を深めるために、実務場面をイメージできるような事例も活用する。また受講生の勤務先や業務内容、興味などを考慮し、より具体的な管理会計の問題を設定し、その課題について討議を行う。

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方や、テーマの設定などを行う。
第2回	管理会計の基礎	管理会計の定義など基礎知識に関して講義する。
第3回	CVP分析	CVP分析の基礎的な考え方および応用問題について講義する。
第4回	予算管理	予算管理の基礎概念と差異分析について講義する。
第5回	在庫管理	在庫管理に関して、経済的発注量やJITについて講義する。
第6回	事業部制会計	分権的組織と業績評価について講義する。
第7回	業績管理会計	業績評価会計に関するテーマで討議を行う。
第8回	業務的意思決定	経営意思決定と業務的意思決定について講義する。
第9回	戦略的意思決定	戦略的意思決定と設備投資意思決定について講義する。
第10回	意思決定会計	意思決定会計に関するテーマで討議を行う。
第11回	原価企画	戦略的コスト・マネジメントと原価企画について講義する。
第12回	バランス・スコアカード	BSCと戦略マップについて講義する。
第13回	ABC/ABM	伝統的原価計算とABC、そしてABMに関して講義する。
第14回	財務データの活用	財務データを用いた財務諸表分析や企業価値評価について講義する。
第15回	管理会計の新しい課題	財務データを利用したテーマで討議を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業におけるテキストの該当箇所を事前に読んで理解する。輪読形式の際には、レジュメ作成と共に報告での質問に備える。

### 【テキスト（教科書）】

前半の講義では、基礎的知識の修得のために次のテキストを利用する。  
・武脇誠・森口毅彦・青木章通・平井裕久『管理会計（会計学叢書）』新世社（2008）  
後半の輪読で利用するテキストや論文については、初回授業にて受講生と相談の上、決定する。

### 【参考書】

・浅田孝幸、頼誠、鈴木研一、中川優、佐々木郁子『管理会計・入門』有斐閣（2005）  
・門田安弘『管理会計レクチャー』税務経理協会（2008）  
・岡本清、廣本敏郎、尾畑裕、挽文子『管理会計』中央経済社（2008）  
・櫻井通晴『管理会計』同文館出版（2009）  
・谷武幸、小林啓孝、小倉昇『業績管理会計』中央経済社（2010）

### 【成績評価の方法と基準】

授業における議論への貢献：50%

授業内での課題等（輪読での準備を含む）：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 管理会計、企業価値評価

<研究テーマ> 会計情報を用いた実証研究

<主要研究業績>

- ①「先入先出法による累加法の検討」『管理会計学』第23巻第1号、2015年。
- ②『Statistaで計量経済学入門（第2版）』ミネルヴァ書房、2011年。
- ③「併用方式による企業価値評価－加重平均におけるウェイトの問題に焦点を当てて－」『原価計算研究』第34巻第2号、2010年。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計を習得した受講生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して会計実務を理解することを旨とする。

財務諸表の作り方については、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する議論などが含まれる。

財務諸表の読み方については、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

【到達目標】

- ①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
- ②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要な基礎概念について理解する。
- ③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
- ④公表された財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【授業の進め方と方法】

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計という技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

-本講義で学習する主な財務指標

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率（ROE）、1株当たり当期純利益（EPS）、時価簿価比率（PBR）、経済的付加価値（EVA）

-本講義で観察・分析する財務諸表

本年度はアメリカ企業を取り上げる。その際、同業種の日本企業とも適宜比較する。取り上げる予定の企業は次のとおりである：Apple（電子機器）、Starbucks Corporation（コーヒー）、Chipotle Mexican Grill（レストラン）、Whole Foods Market（グロサリー）、Nike（アパレル）、Target Corporation（ディスカウントストア）、Royal Caribbean Cruises（海運）、Virgin America（空運）、GoPro（映像機器）、The Walt Disney Company（エンターテインメント）、Tesla Motors（電気自動車）。

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容が教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する（後述の「成績評価の方法と基準」を参照）。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	本講義の概観	本講義全体の学習内容と講義計画を説明する。財務会計を学ぶ目的や動機を受講生間で共有する。
2	会計システム	会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。財務会計の目的と役割を明確化する。とくに、利害調整と情報提供という2つの目的について解説する。
3	会計システムのインプットとアウトプット	会計システムのインプットたる「取引」について理解を深める。会計システムのアウトプットたる損益計算書と貸借対照表について解説する。また、収支計算書との関係を理解する。
4	複式簿記	簿記一巡の手続きを解説する。日商3級～2級程度の問題を通じて理解度を確認する。
5	会計基準と会計法規	財務会計に関わる会計基準と法規制について、その存在理由と期待される役割について説明する。
6	日本と世界の会計基準	日本の会計基準の歴史を概観し、『企業会計原則』と『企業会計基準』について解説する。アメリカ会計基準および国際財務報告基準（IFRS）の歴史と「概念フレームワーク」の内容を解説する。

7	利益計算のアプローチ	損益法と財産法、収益費用アプローチと資産負債アプローチについて、両者の特性を考察する。
8	発生主義会計	収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説する。合理的な期間損益計算を実現するための費用収益対応の原則について、具体例を用いながら解説する。
9	原価主義会計	代替的な資産評価基準を学び、それぞれの特徴について検討したうえで、取得原価の合理性について検討する。
10	個別論点①：金融商品会計	金融商品の期末評価の考え方について解説する。
11	個別論点②：棚卸資産会計	棚卸資産の評価方法と、評価方法の違いが利益計算にどのように影響するかを解説する。
12	個別論点③：固定資産会計	減価償却、減損会計、リース会計、資産除去債務会計について解説する。
13	個別論点④：引当金会計	製品保証引当金、および退職給付引当金について解説する。
14	個別論点⑤：その他の会計処理	ストック・オプション会計、および外貨建取引会計について解説する。
15	会計システムの評価：理論と実証	現行の会計システムの理論的根拠と実証的合理性について、会計学研究成果を紹介しながら検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業のIR資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。その方法等については講義内で説明する。

【テキスト（教科書）】

講義内容と演習問題を記述したレジュメを用いる。レジュメは授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【参考書】

- 財務会計論全般
- 1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2017年4月現在の最新版。
- 2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2017年4月現在の最新版。
- 3 飯野利夫『財務会計論』三訂版、同文館、1993年。
- 4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第9版、中央経済社、2015年。
- 4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第9版、中央経済社、2015年。
- 5 斎藤静樹『企業会計とディスクロージャー』第4版、東京大学出版会、2010年。
- 6 ウィリアム・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第3版、白桃書房、2010年。
- 7 ウィリアム・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008年。
- 8『会計法規集』中央経済社、2017年4月現在の最新版。
- 財務諸表分析
- 9 伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社、2017年4月現在の最新版。
- 10 桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社、2017年4月現在の最新版。
- 11 クリシュナ・G・パレブ他著・斎藤静樹他訳『企業分析入門』第2版、東京大学出版会、2001年。
- 12 マッキンゼー・アンド・カンパニー他著・マッキンゼー・コーポレート・ファイナンス・グループ訳『企業価値評価』第6版（上・下）、ダイヤモンド社、2016年。
- 洋書
- 13 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd edition, McGraw-Hill, 2009.
- 14 Robert, L. Financial Accounting, 8th edition, McGraw-Hill Education, 2013.
- 15 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th edition, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

以下の2点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。

- 1 学期末の筆記試験（90％）  
持ち込み不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。
- 2 質問票への記述状況（10％）  
各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への参画と貢献に対する評価として、最大10％の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。受講生はそれをダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 財務会計  
<研究テーマ> 自然災害時の財務報告、財務報告におけるグラフの利用と効果、および公正価値会計  
<主要研究業績> 川島健司（2017）「平成28年（2016年）熊本地震における適時開示情報の分析」『産業経理』Vol.76, No.4, pp.58-81.

# 租税法

菊谷 正人

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

租税の意義・根拠・種類・租税法の意義・範囲および基本原則（租税法主義、租税公平主義）等を概説した上で、租税実体法として法人税法、所得税法、消費税法、相続税法、地方税法等の基本的必要事項を各国の税法と比較しながら講義します。また、現行租税制度の考え方・手続に基づく既成概念・手法から切り放し、現行租税法の不備・問題点の是正および徴税システムの再構築や新規税目の導入、税額計算方法の抜本的修正を提案します。

## 【到達目標】

租税法令に対する単なる条文解釈に止まることなく、会計専門家として身に付けなければならない税務計算例も提示されます。

## 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストを用いて講義します。重要な課題については、判例等のプリントを配布し、それについてディスカッションを行います。

## 【授業計画】

### 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	(前) 租税法の意義・根拠 (後) 租税法の基本原則	(前) 租税法の種類（租税実体法・租税手続法・租税救済法・租税処罰法） (後) 租税法主義（課税要件法定主義・課税要件明確主義・手続的保障原則）、課税公平性（租税公平主義・租税応益説・租税応能説）
第 2 回	(前) 税源の概念・分類の問題点 (後) 所得税の納税義務者・所得概念・所得の種類	(前) 国税・地方税の種類（所得税・消費税・財産税・流通税）、現行税目再分類と課税適正化 (後) 居住者・非居住者、純資産増加説、勤労所得・不労所得・財産所得・資産労働結合所得
第 3 回	(前) 課税所得の種類 (後) 所得金額の計算	(前) 利子所得・配当所得・不動産所得・事業所得・給与所得・退職所得・山林所得・譲渡所得・一時所得・雑所得 (後) 総収入金額と必要経費の具体的内容、損益通算の仕組み
第 4 回	(前) 税額の計算における検討課題 (後) 所得税における課税単位の検討課題	(前) 所得控除（配偶者控除・医療費控除・生命保険控除等）、総合課税と分離課税 (後) 少子・高齢化と課税単位、個人単位課税と世帯単位課税（2分2乗方式・N分N乗方式）
第 5 回	(前) 法人税の納税義務者と益金・損金の概念 (後) 主要な益金算入項目・益金不算入項目（1）	(前) 公共法人・協同組合等・人格のない社団等・普通法人 (後) 通常の販売収益、特殊販売収益、長期請負工事
第 6 回	(前) 主要な益金算入項目・益金不算入項目（2） (後) 主要な損金算入項目（1）	(前) 役務収益、資産譲渡益、資産受贈益、受取配当等 (後) 商品の売上原価、有価証券の譲渡原価、交際費等
第 7 回	(前) 主要な損金算入項目（2） (後) 主要な損金算入項目（3）	(前) 普通償却（普通償却限度額、普通償却超過額）、特別償却（初年度特別償却・割増償却） (後) 減価償却制度の国際比較（英国のキャピタルアローワンス・米国の加速度償却）
第 8 回	(前) 主要な損金不算入項目 (後) 現行法人税法における所得計算の問題点	(前) 役員報酬の過大給与、交際費・寄附金の損金不算入限度額等 (後) 法人税の益金課税論（法人税の外形標準課税化）
第 9 回	(前) 消費税法の意義と課題 (後) 消費税法の制定・改正経緯	(前) EU 型付加価値税との相違点、消費税法の課税対象、非課税取引、不課税取引 (後) 昭和 11 年の馬場税制改革案（取引高税）、昭和 23 年の取引高税法の制定、昭和 63 年の消費税法制定
第 10 回	(前) 事業者免税点制度の現状と課題 (後) 簡易課税制度の現状と課題	(前) 事業者免税点の国際比較、益税の問題 (後) 実額控除と概算控除、みなし仕入れ率の問題点、みなし仕入れ率の国際比較
第 11 回	(前) 帳簿方式・税率の現状と課題 (後) 相続税の問題点（1）	(前) インボイス方式導入、単一税率と複数税率（標準税率と軽減税率）との短所・長所 (後) 相続税・贈与税の課税根拠、法定相続人と法定相続分、相続税額・贈与税額の計算
第 12 回	(前) 相続税の問題点（2） (後) 財産保有税の導入	(前) 財産評価の問題点（法定評価、財産評価基本通達の評価方法） (後) 金融資産税導入論、富裕税法再導入論

第 13 回	(前) その他の国税法の検討 (後) 国税一般法の検討	(前) 酒税法、たばこ税法、印紙税法、登録免許税法、揮発油税法、関税法等 (後) 国税通則法、国税徴収法、国税犯則取締法
第 14 回	(前) 地方税法の検討（1） (後) 地方税法の検討（2）	(前) 道府県税（道府県民税・事業税・不動産取得税・ゴルフ場利用税・自動車税等） (後) 市町村税（市町村民税・固定資産税・事業所税等）
第 15 回	(前) わが国租税制度の課題（1） (後) わが国租税制度の課題（2）	(前) 中小法人課税の問題点・国際比較、所得課税の問題点・国際比較、財産保有課税の問題点・国際比較 (後) 環境税の課題、租税教育の構築、税理士 CPE 制度の導入、租税警察の設置、OECD の BEPS（税源侵食と利益移転）報告書に対する対応

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わが国の租税法は、「一読して難解、再読して誤解、三読して不可解、四読して曲解、五読しても無理解」に終わる条文が多いと言われるように、複雑・難解であるため、事前に該当条文を読むようにして下さい。

## 【テキスト（教科書）】

菊谷正人『税制革命』税務経理協会、平成 20 年。  
菊谷正人・依田俊伸・井上行忠・酒井翔子共著『租税法入門』同文館出版、平成 28 年。  
プリント配布。

## 【参考書】

前川邦生・菊谷正人共編著『租税法全説』同文館出版、平成 13 年。  
菊谷正人『法人税法要説－税務計算例でわかる法人税法－』同文館出版、平成 15 年。  
菊谷正人・依田俊伸共著『所得税法要説』同文館出版、平成 17 年。  
菊谷正人・依田俊伸共著『法人税法要説（新版）』同文館出版、平成 20 年。  
菊谷正人・前川邦生・依田俊伸共著『租税法要説』同文館出版、平成 24 年。  
菊谷宗貴・肥沼 晃共著『遺言書と相続』税務経理協会、平成 24 年。  
山本守之『新版 検証税法上の不確定概念』中央経済社平成 27 年。  
川田 剛『十二訂版 租税法入門』大蔵財務協会、平成 28 年。

## 【成績評価の方法と基準】

討論参加・発表等 70 %、期末レポート 30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

租税実務・判例を数多く紹介することにより、租税法の基礎概念の理解をしやすいように、学生の反応を見ながら工夫します。なるべく、遅刻・無断欠席をしないでください。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 会計学、租税法  
<研究テーマ> 国際課税、英国租税制度、国際会計基準（IFRS・IAS）、企業結合会計、連結会計  
<主要研究業績>  
「消費税法における問題点」『経営志林』第 43 巻第 1 号、2006 年。  
「会計基準の国際化と課税所得」『税務会計研究』第 20 号、2011 年。  
「英国税法における減価償却制度の特徴」『経営志林』第 48 巻第 3 号、2011 年。  
「英国における中小法人課税の特徴」『租税実務研究』第 1 号、2013 年。  
「英国の『個人貯蓄口座』（ISA）に対する非課税制度の特徴」『租税実務研究』第 2 号、2014 年。  
「『番号法』創設に伴う税務処理の課題」『租税実務研究』第 4 号、2015 年。  
「特別償却と税額控除の現状と課題」『税研』第 31 巻第 3 号、2015 年。  
「『富裕税法』再導入論」『経営志林』第 53 巻第 2 号、2016 年

## 経営分析

高橋 美穂子

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の主たる目的は、企業価値を評価するための分析手法（ツール）を習得することです。講義では、過去と現在の分析（事業分析・会計分析・財務比率分析）に基づいて予測財務諸表を作成し、それに基づき企業価値を推定する一連のプロセスを検討します。

### 【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が企業を分析・評価する上で必要な知識とスキルを習得し、自ら予想した将来のシナリオに基づいて企業価値が推定できることです。

### 【授業の進め方と方法】

受講生による報告・討論、問題演習に基づき授業を進行します。問題演習にはエクセルのワークシートを使うため、必要に応じてノートPCを持参してください。

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容や進め方を確認し、報告負担を決定する。 評価理論の概要を説明する（テキスト1章）。
第2回	情報収集	企業分析において重視すべき情報を識別し、それらの収集方法を理解する（テキスト2章）。
第3回	事業の理解	事業分析の内容と方法をコルズ社の事例を用いて検討する（テキスト3章）。
第4回	会計分析(1)	会計情報の限界と測定誤差を検討する（テキスト4章）。 問題演習を通して測定誤差の影響を検討する。
第5回	会計分析(2)	測定誤差が発生する要因を理解した上でコルズ社の会計分析の内容を検討する（テキスト4章）。
第6回	財務比率分析(1)	成長性および収益性に関連する各指標について、コルズ社の事例を用いて検討する（テキスト5章）。
第7回	財務比率分析(2)	利益率と回転率について、コルズ社と同様他社の事例を踏まえながら検討する（テキスト5章）。
第8回	キャッシュ・フロー分析	キャッシュフローと利益の関係を理解した上で、利益の質を検討する（テキスト6章）。
第9回	体系的な予測	体系的な予測を行うためのフレームワークを理解した上で、eValのワークシートを用いた予測体系を把握する（テキスト7章）。
第10回	各項目の予測(1)	貸借対照表と損益計算書の各予測項目の内容を把握し、予測の際に留意すべき点を検討する（テキスト8章）。
第11回	各項目の予測(2)	コルズ社の事例を用いながら、予測結果を検討する（テキスト8章）。
第12回	グループワーク報告(1)	分析対象企業の事業分析・会計分析・財務比率分析の結果（過去と現在の分析結果）をグループ毎に報告する。
第13回	株主価値評価理論	超過利益モデルの理論的基礎を理解する（テキスト10章）。 割引計算に用いる資本コストの推定方法を確認する（テキスト9章）。
第14回	株価指標	株価指標（PBR・PER・PEGレシオ）の内容、および指標間関係を理解する（テキスト11章）。
第15回	グループワーク報告(2)	最終的に得られた株主価値の推定値をグループ毎に報告し、推定結果や仮定の妥当性などについてディスカッションを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は報告資料を作成してください。それ以外の受講生は事前にテキストの該当箇所を読み、内容を理解した上で授業に参加してください。また、レポート課題（グループワーク）の作成・発表にあたっては事前準備が必要です。

### 【テキスト（教科書）】

ランドホルム他著、深井忠他訳「企業価値評価 evalによる財務分析と評価」、マグローヒル・エデュケーション、2015年

### 【参考書】

バレブ他著、斎藤静樹監訳、筒井知彦他訳「企業分析入門（第2版）」東大出版会、2001年

### 【成績評価の方法と基準】

報告（30%）、問題演習（20%）、レポート課題（50%）に基づき評価します。

レポート課題（グループワーク）の分析対象企業は受講生と相談の上、決定します。

レポート課題の内容は、分析対象企業の事業分析、会計分析、財務比率分析を行った上で（第12回講義・報告1）、楽観的・普通・悲観的仮定に基づき株主価値を推定した結果（第15回講義・報告2）を示したものとします。

### 【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき、受講生からの積極的なフィードバックを期待します。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財務会計、企業評価

<研究テーマ>

会計数値に基づく企業評価、企業評価から見た会計ディスクロージャー制度

<主要研究業績>

「会計数値と企業評価モデル—線形情報モデルを用いた企業評価に関する実証研究—」『会計』、159（9）、2001年。

ランドホルム他著、深井忠他訳「企業価値評価 evalによる財務分析と評価」、マグローヒル・エデュケーション、2015年。（共訳）

## 基礎ファイナンス

山崎 輝

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファイナンス理論の広範な成果は実社会に多大な影響を与えており、これなくして現代の金融ビジネスは成立しない状況になっている。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析やデリバティブ理論における現在価値の評価手法を主なテーマとして講義を行う。それに加えて、ポートフォリオ理論の入門的な解説を行う。金融実務における基礎理論の役割や活用方法についても詳しく解説したい。多くのビジネススクールでは、ファイナンスは必修科目に指定されているため、ファイナンスが専門ではない学生でも一通りのファイナンスの知識を学ぶのが一般的である。この授業ではそのような機会を提供したい。

### 【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げる。

- ① 金融市場の基礎知識・用語を習得し、金融商品・金融取引のしくみを理解する。
- ② 債券や株式、デリバティブにおける基本的な計量分析や価値評価ができる。
- ③ 無裁定価格理論などのファイナンスの基本概念や将来の不確実性を伴うキャッシュフローの価値評価手法が説明できる。
- ④ 証券投資の基礎を現代ポートフォリオ理論に沿って理解する。

### 【授業の進め方と方法】

債券・株式市場、デリバティブ市場の概観や基礎用語を説明した後に、現在価値の考え方や債券・株式、デリバティブの基礎的な分析手法を丁寧に解説する。また講義後半では、ポートフォリオ理論の入門的な解説を行う予定である。授業はスライドを用いた講義形式となるが、黒板にも板書するので必要に応じてメモをとること。講義中には分析に必要な数学の解説も適宜行う。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとイントロダクション	講義の進め方等の説明。
第2回	金融・証券市場	債券・株式市場を中心に市場の機能や分類の概説。
第3回	キャッシュフローと現在価値	分析に必要な数学の予備知識および現在価値の概念の解説。
第4回	債券分析入門1	債券投資の収益率、スポットレート、フォワードレートの概念の解説。
第5回	債券分析入門2	金利の期間構造や債券投資のリスク分析の入門的な解説。
第6回	債券分析入門3	債券の信用リスクと債券格付けの入門的な解説。
第7回	株式分析入門1	配当割引モデルの概説とそれを活用した理論株価の分析。
第8回	株式分析入門2	キャッシュフロー割引モデルと残余利益モデルの概説とそれらを活用した理論株価の分析。
第9回	デリバティブ市場	店頭取引や取引所取引など、デリバティブ市場の概観の紹介。
第10回	先渡・先物分析入門	先渡取引と先物取引のしくみと活用例、プライシング手法の入門的な解説。
第11回	スワップ分析入門	スワップ取引のしくみと活用例、プライシング手法の入門的な解説。
第12回	オプション分析入門	オプション取引のしくみと活用例、2項モデルによるプライシング手法の解説。
第13回	クレジットデリバティブ分析入門	クレジット・デフォルト・スワップのしくみと活用例の紹介。
第14回	ポートフォリオ理論入門1	平均分散アプローチによる証券投資の意思決定理論の解説。
第15回	ポートフォリオ理論入門2	CAPM（資本資産価格モデル）の導出とアルファとベータの解釈。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライド資料の復習を十分に行うこと。知識を積み上げて学んで行くので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

### 【テキスト（教科書）】

スライド資料を各自でダウンロードして持参すること。ノート PC やタブレット端末を持ち込んでスライド資料を参照するのもよい。

### 【参考書】

- ① 佐野三郎、『証券アナリスト第1次レベル合格最短テキスト 証券分析とポートフォリオ・マネジメント 解説&例題』、2015年、ビジネス教育出版社
- ② 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- ③ ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション
- ④ 小林孝雄、芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、問題演習（50%）

授業中に基礎的な問題を解いてもらうことで理解度を確認する。

### 【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することでファイナンスの基礎理論が理解しやすくなるように工夫する。

### 【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトだとなおよい）を使うので、各自で持参すること。

### 【その他の重要事項】

2016年度以前に「基礎ファイナンス I」を履修した者は本科目を履修できないので注意すること。

### 【前提知識】

中学・高校の数学の基礎知識（連立方程式、2次方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ファイナンス

<研究テーマ> 金融工学、数理ファイナンス

<主要研究業績>

- ① “Generalized Barndorff-Nielsen and Shephard Model and Discretely Monitored Option Pricing,” *International Journal of Theoretical and Applied Finance*, Vol.19, No.4, 2016, World Scientific
- ② “Asset Pricing with Non-Geometric Type of Dividends,” *Annals of Financial Economics*, Vol.10, No.2, 2015, World Scientific
- ③ “Pricing Path-Dependent Options with Discrete Monitoring under Time-Changed Lévy Processes,” *Applied Mathematical Finance*, Vol.22, No.2, 2015, Taylor & Francis

## 実証ファイナンス入門

### 金 瑠 晋

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では主にファイナンスやアカウンティング関連分野において論文を書くために必要とされる実証分析の基礎を学習します。実習を取り入れることによって実践的な学習を促します。とりわけ、イベント分析については多くの時間を割当てて一定レベルの理解を達成することを目指します。イベント分析は、今やファイナンス・アカウンティング分野を超えて、マーケティング、マネジメント、国際経営、経済学など、幅広い分野で分析ツールとして採用されています。ファイナンスやアカウンティング専攻以外の他専攻学生の受講をも歓迎します。

#### 【到達目標】

- ・論文作成に必要な実証分析の基礎を身に付けることができます。
- ・仮説の立て方と検証手法について一定の知識が培われます。
- ・金融・資本市場から入手できるデータの有用性が実感できるようになります。
- ・計量経済ソフトウェアの利用による結果の出力とその解釈ができるようになります。
- ・既存の実証論文を読む力が高まります。
- ・企業意思決定に対する市場参加者の反応を調べる一連のプロセスが理解できます。
- ・リスクとその測定に関する理解が深まります。
- ・時系列データの見方について、一定レベルの知識が培われます。

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に理論の講義と実習に基づきます。時間の制約上、モデル推定の直観的理解と実際のデータ処理能力の向上に照準を合わせます。授業中には、毎回計量ソフトウェアによる実習を行い、理解を固めます。講義内容は、受講者の要望などにより多少の変更があり得ます。授業計画については、テーマの順位が前後する、または、時間の配分が流動的になる場合があります。

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
1-2	基礎統計学の復習	統計学と推定との結び付け、基礎概念の復習、推定量の望ましい性質
3-4	株式の収益率、リスク	収益率の求め方、期待収益率とボラティリティ、過去の株価データからの収益率の計算、ボラティリティの推定、エクセルによる実習
5-6	標準的仮定の下での回帰分析 I	最小二乗法と回帰分析との結び付け、標準的仮定の理解
7-8	標準的仮定の下での回帰分析 II	仮説検定、アウトプットの解釈、エクセルによる実習、株価データに基づくベータの推定
9-10	イベント分析の考え方	効率的資本市場の理解、イベント分析の解説、イベント分析の応用例の紹介
11-12	イベント分析の実習 I	エクセル実習による初歩的な理解、データの取得とハンドリング、イベント分析のフローを理解
13-14	イベント分析の実習 II	計量ソフトのプログラミング基礎
15-16	イベント分析の実習 III	計量ソフトによる株価データのハンドリング、過去の収益率の計算、回帰分析、データの結合、アルゴリズムの理解
17-18	イベント分析の実習 IV	計量ソフトによるプログラム完成、結果の解釈、応用例との比較
19-20	標準的仮定が満たされない場合の回帰分析	誤差項の自己相関、不均一分散、説明変数と誤差項との独立性問題
21-22	時系列分析の基礎 I	金融時系列データの特徴、定常性の理解、計量ソフトによる実習
23-24	時系列分析の基礎 II	株式収益率を用いた古典的 ARMA モデルの推定及びモデル選択、計量ソフトによる実習
25-26	ベクトル自己回帰モデルの理解と株式市場分析	VAR モデル、グレンジャー因果性、インパルス応答関数、分散分解、計量ソフトによる実習
27-28	確率的ボラティリティの推定	GARCH モデルの推定、計量ソフトによる実習

29-30 プロジェクトの報告及 受講者によるプロジェクト報告・  
び総括 ディスカッション

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算や計量経済ソフトウェアの使い方に慣れるよう心がけましょう。

#### 【テキスト（教科書）】

資料を適宜配布します。

#### 【参考書】

適宜お知らせします。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（質疑応答、授業参加度）30 %

プレゼンテーション 30 %

期末レポート 40%

受講者には、授業で学習した分析手法を用いて簡単な実証分析を行い、解説する機会が与えられます。テーマについては、特に縛りはありません。報告について他の受講者と講師から受けたフィードバックを参考にし、報告内容に改善を加え、期末レポートとして提出して下さい。

#### 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい解説を心がけます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに実習結果をアップロードしますので、活用してください。

毎回大学院棟 2 階講師控え室からノートパソコンを借りてご持参下さい。

#### 【その他の重要事項】

受講者にはアカウンティング・ファイナンスコース関連科目の履修を前提としません。言うまでもなく、これらの科目を履修または並行受講する場合、より理解が深まります。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ファイナンス

<研究テーマ>企業の財務意思決定（株式分割、IPO など）、オプションの価格付け

<主要研究業績>

“Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages,” Japan and the World Economy, Vol. 30, 1-9, 2014 (with N. Kishimoto).

“Effects of Stochastic Interest Rates and Volatility on Contingent Claims,” Japanese Economic Review, Vol. 58, 71-106, 2007 (with N. Kunitomo).

“Good-Deal Option Price Bounds for a Non-Traded Event with Stochastic Return: A Note,” Asia-Pacific Financial Markets, Vol. 11, 135-141, 2004.

## コーポレート・ファイナンス

岸本 直樹

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目の目的は、企業財務に関する研究・教育分野であるコーポレート・ファイナンスの基本的な知見やそれに基づいた分析ツールを学ぶことにある。具体的には、まず、コーポレート・ファイナンスが提供する基本的な理論を学んだ後、コーポレート・ファイナンスに関わる日本企業のケーススタディに取り組む。

### 【到達目標】

コーポレート・ファイナンスの入門的な科目において最も重要なトピックは、次の3点である。したがって、本科目はこれら3点を学ぶことを第一義の到達目標とする。

(1) コーポレート・ファイナンスでは、投資案件の採否に対して正味現在価値法（net present value, NPV）を適用することを推奨する。したがって、本科目では、NPVの概要を学んだ後、それを簡単な事例に対して適用する。

(2) 資本は大きく負債と株主資本に分けることができる。コーポレート・ファイナンスでは、古くから両者の相対的な比率を変化させたとき企業価値が増えるのか、あるいは、減るのかという点を重要な論点として議論してきた。したがって、本科目では、この点に関する基礎理論であるモディリアーニ・ミラーの定理のほか、レバレッジを上げることで企業価値が上昇する要因と、レバレッジを下げることで企業価値が上昇する要因の両方を学ぶ。

(3) コーポレート・ファイナンスでは、古くから配当を変化させたとき企業価値が増えるのか、あるいは、減るのかという点を重要な論点として議論してきた。本科目では、この点に関する基礎理論であるモディリアーニ・ミラーの結論のほか、配当を上げることで企業価値が上昇するメカニズムと、配当を下げることで企業価値が上昇するメカニズムの両方を学ぶ。

### 【授業の進め方と方法】

まず、コーポレート・ファイナンス理論を学ぶ部分は、講師が、用意した講義資料に沿って講義を行う。また、コーポレート・ファイナンスのケーススタディに関する部分は、講師が予め選んだ教科書の特定の章、あるいは、出来合いのケーススタディについて、履修者が概要をまとめて発表し、その後、履修者がディスカッションするという形で授業を進める。

### 【授業計画】

#### 秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本科目の授業内容全体を概説すると同時に、授業の運営方法を説明する。
第2回	正味現在価値法	正味現在価値法の概要を説明した後、投資案件が生み出す将来CFの予測方法、投資案件に適用すべき割引率の算出方法を解説する。
第3回	正味現在価値法	投資案件に適用すべき割引率の算出方法について前回遺り残した部分を解説した後、ミニ・ケーススタディを解く。
第4回	資本構成の理論	資本構成に関するモディリアーニ・ミラーの定理、レバレッジを上げることで企業価値が上昇する要因と、レバレッジを下げることで企業価値が上昇する要因の両方を概説する。
第5回	配当政策の理論	配当政策に関する基本的結果であるモディリアーニ・ミラーの結論を解説した後、配当を増やすことによって企業価値が上昇するメカニズムと、配当を減らすことによって企業価値が減るメカニズムを解説する。
第6回	コーポレートファイナンスに関するケーススタディ第1回	参考資料に挙げた書籍の中にある多数のケースの中から、履修者が選んだケースを紹介し、その後、クラス全体でディスカッションをする。
第7回	コーポレートファイナンスに関するケーススタディ第2回	参考資料に挙げた書籍の中にある多数のケースの中から、履修者が選んだケースを紹介し、その後、クラス全体でディスカッションをする。

第8回 コーポレートファイナンスに関するケーススタディ第3回 参考資料に挙げた書籍の中にある多数のケースの中から、履修者が選んだケースを紹介し、その後、クラス全体でディスカッションをする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生全員が各回で扱う資料をしっかりと予習することを履修要件とする。

### 【テキスト（教科書）】

講師が用意する『講義資料』。

### 【参考書】

砂川伸幸、川北英隆、杉浦秀徳、『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞社、2008。

砂川伸幸、川北英隆、杉浦秀徳、佐藤淑子共著、『経営戦略とコーポレートファイナンス』、日本経済新聞社、2013。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業中の発言のほか、ケースの発表に基づく。

### 【学生の意見等からの気づき】

特段なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

2016年度以前に「財務戦略論」を履修した者は本科目を履修することができないので、その点に注意すること。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ファイナンス

<研究テーマ> 債券、先物、オプション、デリバティブ、証券化商品、住宅ローンの期限前償還。

<主要研究業績>

①"Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages," Japan and the World Economy, No. 30 (2014), pp. 1-9.

②"Pricing Path-Dependent Securities by the Extended Tree Method," Management Science, Vol. 50 No. 9 (2004), pp. 1235-1248.

③"Duration and Convexity of Coupon Bond Futures," Journal of Fixed Income, Vol. 8 No. 1 (1998), pp.79-83.

## 経営学基礎

福島 英史

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、経営学の基礎的な知識を習得することにあります。企業組織が市場を中心とした環境に働きかける活動とこれを支える組織の問題を考えていきます。どのように精緻に活動を計画できたとしても、組織がこれを適切に遂行できなければ、期待するような成果を得ることはできるはずもありません。そこで、組織の対外的な活動とこれを計画し、遂行する組織内部の問題についてみていきます。

### 【到達目標】

経営学を体系的に学んだことがない者が、経営学の基礎的な概念・視角について理解し、説明できることが到達目標です。

### 【授業の進め方と方法】

日本企業の経営、雇用の問題や顧客・競合他社をとらえる視点、組織の存在意義と人々の参加・調整、会社の形態や資金調達のある方、といった経営学の一般的なトピックスについて講義から学んでいきます。講義中に扱われるトピックスに関連したエクササイズを解くなどの課題が授業中に課されます。その際、履修者は、課題に関する意見を求められます。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要と問題意識の共有
第2-3回	会社の諸形態と資本政策の基本	会社制度の基礎を学び、株式会社の意味を考える
第4-5回	会社の雇用構造と日本的雇用慣行	雇用問題を捉える基本視点の理解
第6-8回	経営戦略の基本的考え方	事業の組立と顧客・競争の捉え方の基礎的視点
第9回	組織と市場	なぜ組織がつくられるのかの理論の基礎
第10回	モチベーション	働く人のやる気に関する理論の基礎
第11-12回	リーダーシップ	リーダーシップに関する理論の基礎
第13-14回	組織の調整メカニズム	管理原則や作業標準化、組織文化、組織構造の役割
第15回	期末試験	学習成果の確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容について復習するとともに、身近な事例で考えてください。課題がある場合には、これを指示します。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、講義中にプリントを配布します。

### 【参考書】

適宜講義中に薦めます

### 【成績評価の方法と基準】

最終日に筆記試験を行う。

筆記試験（60%）、出席（40%）。

出席点には、授業中のエクササイズの解答・これにもとづく発言を含む。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業時エクササイズ時間を増やします

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域>組織の戦略的意思決定

<研究テーマ>戦略と組織・イノベーション、各国企業システムと産業発展のダイナミズム、経営学説史など

<主要研究業績>①「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53(1), 2016. ②「Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,」IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13(1), 2013. ③「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）、2012.

## 会計学基礎

筒井 知彦

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、これまでに会計学を学んだことのない学生が、会計学の入門的な内容を学びます。会計とは何か、財務諸表の仕組みと見方、財務分析の手法を学び、その知識をベースとして、実際に財務諸表の分析を行う。

### 【到達目標】

- ①貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書が読める。
- ②基本的な財務指標の知識が増える。
- ③企業の財務データを利用して基本的な分析ができる。

### 【授業の進め方と方法】

財務諸表の構成、役割および相互関係、利益計算の構造、財務会計の基礎概念などを理解した上で、新聞の会計関係の特集記事などを題材に、現代会計の変化について議論する予定です。

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の全体の概要を説明します。
第2回	財務諸表の見方(その1)	貸借対照表の構造および役割等について講義し、具体的な事例で見方を学ぶ。
第3回	財務諸表の見方(その2)	損益計算書の構造、役割および貸借対照表との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学びます。
第4回	財務諸表の見方(その3)	キャッシュ・フロー計算書の構造、役割並びに貸借対照表および損益計算書との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学ぶ。
第5回	財務諸表の見方(その4)	財務諸表を利用した分析手法を講義し、具体的な事例で実践する。
第6回	制度会計(その1)	わが国の制度会計(金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計)の概要を理解します。
第7回	制度会計(その2)	わが国の制度会計(金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計)の相互の関係と、国際的基準の影響について講義します。
第8回	利益計算の構造(その1)	伝統的な利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第9回	利益計算の構造(その2)	資産・負債アプローチに基づく利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第10回	利益計算の構造(その3)	伝統的な利益計算と資産・負債アプローチに基づく利益計算が現代の企業会計においてどのように統合されているかを理解します。
第11回	経営分析(1)	具体的な事例により、収益性を分析します。
第12回	経営分析(2)	具体的な事例により、効率性を分析します。
第13回	経営分析(3)	具体的な事例により、安全性を分析します。
第14回	経営分析(4)	分析結果の報告会を行います。
第15回	試験	授業内試験を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義資料を配布しますので、事前に目を通していただくことが求められます。また、配布する財務データについて、簡単な経営分析レポートをまとめてもらう予定です。

### 【テキスト（教科書）】

講義資料を配布します。

### 【参考書】

特に指定はしませんが、会計学または財務会計の入門書が参考になります。

### 【成績評価の方法と基準】

試験 80%、発表およびレポート等 20%により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

本講義はFDアンケート適用後はじめてのため、記述することができません。

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域>財務会計

<研究テーマ>会計規制論、フランス会計制度研究

<主要研究業績>

- ①『企業分析入門』（共訳、東京大学出版会、2001年3月）
- ②『財務会計通論』（分担執筆、税務経理協会、2009年3月）
- ③『収益の会計』（日本証券アナリスト協会）



## 情報学特論

児玉 靖司

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次の項目に沿って講義を行い、簡単な演習として学生独自の問題発見、解決を行うことを目標とする。①情報学とは、②コンピュータと経営学、③人工知能と経営学、④最近の情報システム、⑤経営戦略と情報システム、⑥経営戦略とOR（オペレーションズリサーチ）、⑦線形計画法とゲーム理論、⑧その他の話題、以上のテーマに関する講義を行う。

### 【到達目標】

できるだけ最新的话题から経営学との関係についてまとめ、考察を行う方法を身につける。

### 【授業の進め方と方法】

情報学は、現在の経営学にとっても重要な学問領域である。本講義では、コンピュータの仕組みから学問としてのコンピュータの話題について幅広く解説し、さらに、情報システムとORを用いた経営戦略のあり方について考察を行う。(1)コンピュータの仕組み、(2)ソフトウェア工学、(3)人工知能とコンピュータ、(4)経営戦略と情報システム、(5)経営戦略と線形計画法、(6)ORを用いた経営戦略、以上をテーマとした講義を行う。全体を通して、経営戦略を意識したコンピュータシステムに関する知識、使い方、情報システムのあり方について触れる。情報学と経営学との接点に関する学問的考察は一般的にはほとんどないと考えられるので独自の考察を行う。さらに、論文講読、外書講読を希望する学生が多い場合は、最近の情報システムやコンピュータ科学に関する論文を選択し輪読することがある。PCの画面をプロジェクタに投影しながら解説する。

### 【授業計画】

#### 秋学期後半

回	テーマ	内容
第1回	情報学とは	情報学の基礎と経営学の関わりについて学ぶ。
第2回	コンピュータ科学について	コンピュータ科学の基礎から応用について学ぶ。
第3回	ソフトウェア工学(1)	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第4回	ソフトウェア工学(2)	要求工学を中心したソフトウェア工学について学ぶ。
第5回	ソフトウェア工学(3)	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第6回	線形計画法(1)	線形計画法について学ぶ。
第7回	線形計画法(2)	線形計画法全般について学ぶ。
第8回	線形計画法(3)	線形計画法の応用について学ぶ。
第9回	モデル検査(1)	モデル検査の基礎について学ぶ。
第10回	モデル検査(2)	モデル検査について学ぶ。
第11回	人工知能概説	人工知能と経営学について考察をする。
第12回	ゲーム理論(1)	ゲーム理論の基礎について学ぶ。
第13回	ゲーム理論(2)	ゲーム理論の基本定理を中心として学ぶ。
第14回	ゲーム理論(3)	ゲーム理論の応用について学ぶ。
第15回	まとめ	その他の話題を含め、講義のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中で、1回以上プレゼンテーションを行ってもらうため、準備を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。パワーポイント資料を別途配布する。

### 【参考書】

開講後に指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)、レポートまたはプレゼンテーション(50%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の研究内容に関連したディスカッションを多用する。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 情報学

<研究テーマ> デイブラーニング、学習解析、コンピュータ科学  
<主要研究業績>

Data Mining of Students' Behaviors in Programming Exercises, Proc. of 3rd International KES Conference on Smart Education and E-learning (KES-SEL-16), June 2016.

Reports on the Practice Toward the Self-Regulatory Learning using Google Forms, Proc. of 5th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2016), July 2016.

JMOOC: MOOC from Japan, Our Challenges and Perspectives, Proc. of Regional Expert Meeting on MOOCs, July 2015.

## 外国語経営学特殊講義 1

ジョナサン・エーブル

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Managerial Communication for International Business

【到達目標】

This course aims to promote confident practical use of English in a Business Environment.

【授業の進め方と方法】

Effective English language communication has become an essential tool in the global business environment. This course will lead students in maximizing their English skills for business situations.

The emphasis is on practice and confidence-building through personal and interpersonal communication.

Argument, decision making and critical thinking in business situations form the core of the classes, which will focus on student-led activities with the instructor as facilitator. Activities will include presentation, practice meetings, debates and discussions. There will be a modicum of written assignment.

All classes are conducted in English.

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and General Overview.	Orientation and first exercises.
Weeks 2 to 7	Student Presentations, Student-led Business Meetings and Debates, Communication techniques. Week 7 will include Part One Assessment.	Themed exercises in practical English use.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation.

【テキスト（教科書）】

To be confirmed.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Attendance is mandatory in this group-dynamic oriented classroom environment.

Continuous assessment by the instructor and final interview.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

## 外国語経営学特殊講義 2

ジョナサン・エーブル

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Managerial Communication for International Business

【到達目標】

Continued practical English for Business.

【授業の進め方と方法】

Effective English language communication has become an essential tool in the global business environment. This course will lead students in maximizing their English skills for business situations.

The emphasis is on practice and confidence-building through personal and interpersonal communication.

Argument, decision making and critical thinking in business situations form the core of the classes, which will focus on student-led activities with the instructor as facilitator. Activities will include presentation, practice meetings, debates and discussions. There will be a modicum of written assignment.

All classes are conducted in English.

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
Weeks 8 to 14	Part Two	Continuing and building on the previous session. Week 14 will include the final assessment.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation.

【テキスト（教科書）】

To be confirmed.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Attendance is mandatory.

Assessment by instructor is continuous. Final interview in week 14.

【学生の意見等からの気づき】

N/A